

幼の兒の教の育

號一十第 號月一十 卷六十三第



東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

廣島文理科 應用心理研究會編

應用心理研究特輯號

應用心理學論文集

最新刊 菊判洋裝 全一冊 紙數貳百八十頁 定價壹圓五十錢 送料十四錢

心理學が醫學、文學、思想、教育、社會問題等、各方面に有する關係の深きは驚くべきもので、最近のそれは學志より街頭に出て直接生活に必須のものとして極めて實際的問題となつて來た。雜誌「應用心理研究」は之等の必要に基き、一は諸大家が心血を注がれたる研究の發表機關として、他面一般社會の心理學應用の理解を深からしめんが爲創刊以來既に卷を増大號として公にする事の出來たのは小館の最も誇とする所である。

應用心理研究 現代應用心理學概観 定價一圓廿錢 送料十四錢

內容目次

- 労働による眼調節機能の變化 高橋 春藏
- 性教育と兒童の性的成熟に就き 牛島 義文
- 外國文學に於ける心的發展 山口 道雄
- 我國職業指導の現狀 新近 犯罪心理學の發展
- 我國應用心理學書目録 古賀 良英
- 小日向 定義
- 上野 義雄
- 石井 俊小
- 鈴木 三信

發兌 東京市牛込區 振替東京三八四二七 中文館書店

廣島文理科 大學教授 文學博士 久保良英著

形態心理學

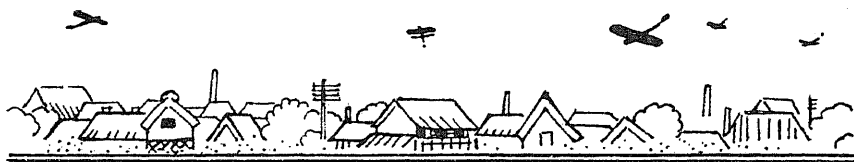
●菊判洋裝全一冊・定價三圓五十錢・送料廿一錢
形態心理學の出現と共に心理學界は一大センセーションを捲き起して居る。彼等はウントやセームスの如き巨匠に依りて建設された心理學から精神現象を見直さんと企て、居る。今回形態心理學の紹介に迅速く努力しつゝありし久保博士に依り初めて本書が公にせられた。

精神分析學

●菊判洋裝全一冊・定價四圓・送料二十一錢
心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならず之れが應用的方面に於ては殆んど無盡蔵と謂ふべくも形而上の諸科學の中に在つては第一位にある。論殊に最近斯く教育界に齎らした影響の甚大さは特筆すべきもので、性教育の根本的解決などに當りては勿論學校教育家他總ての文化人の必讀を乞ふ。

實驗心理學精義

●簡單篇 定價六圓八十錢
●複雜篇 定價六圓
本書は實驗心理學が開拓した所又はせんとする所を広く各種の行動は博士の體験上斯學者の最も興味を失はぬ様實質的兩者交互に説述せられた。此の周到なる用意は如實に本書の上に表現す。如此本書は悉切丁寧に現代の實驗心理學の最新研究を學べ一切發表したアツプデーのものたる事は勿論特に兒童の心理實驗に力を注いだ。



第 一 十 號 幼 兒 教 育 の 第 三 十 六 卷

— (次 目) —

| | | |
|---------------------------|----------------|--------------|
| 口 繪 | 卷 頭 (十 一 月) | 倉 橋 惣 三 (一) |
| | 皇太后陛下の行啓を仰ぎ奉りて | 倉 橋 惣 三 (二) |
| 感 想 | 歐米幼児教育視察記 (一) | 下 田 た づ (八) |
| | 英詩のリズム | 高 市 慶 雄 (一〇) |
| | 兒童心理學文獻抄 (一) | 會 根 保 (一六) |
| | 「觀察」話を終へて | 牛 島 義 友 (一五) |
| 系 統 的 保 育 案 の 實 際 解 說 (八) | | 山 村 き よ (一六) |
| 生 活 訓 練 | | 倉 橋 惣 三 (一三) |
| 誘 導 保 育 | | 菊 池 ふ じ の |
| 唱 歌 遊 戯 | | 村 上 露 子 |
| 談 話 | | 小 島 そ の |
| 觀 察 | | 新 庄 よ し こ |
| 手 技 | | 小 島 光 子 |
| 幼 兒 の 體 育 | | 及 川 ふ み |
| | | 佐 々 木 等 (五) |

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

東京市内 金六錢

地方・北海道

臺灣・樺太 金拾錢

朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まとめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと思ひます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸いです。

三版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

一保育案の實際は幼稚園必須の資料

一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

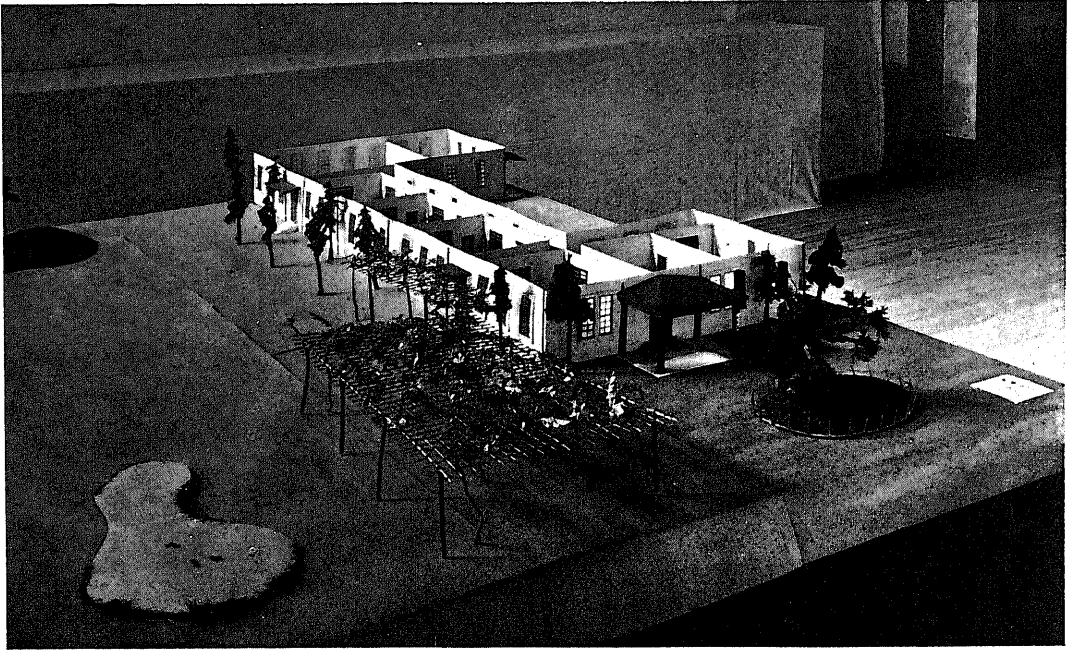
發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替東京一七二六六番

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。



園稚幼屬附校學範師等高子女京東
(照參明說)型模舍園舊

幼 児 の 教 育

昭 和 十 一 年 十 一 月

十 一 月

秋を淋しいものに、悲しいものに思ふのは、老るたる人のこころである。こいふよりも、己が身のはかなさを秋の物情に托して、それをまた心に移し映して見るのは、老人のすることである。内なる秋を外の秋にかこつのである。

色づける木の葉。それはきれいな錦である。風に吹かれて散る木の葉。それはおもしろい舞ひの手である。柿の實は熟して紅くなり、栗の實も熟して殻を割る。秋の自然は、あかるさこ成熟きの力づよさでこそあれ、まごが何が、淋しくて悲しいのか。めきくこ肥え、潑刺まして元氣充つるまごもにまごつて、この位る分らないまごはない。

まごもに、秋を歌つて呉れる詩人よ。まごもに、秋を描いて呉れる畫家よ。先づまごもの心になつて秋を喜ばなくてはならない。

(倉 橋 惣 三)

皇太后陛下の行啓を仰ぎ奉りて

倉 橋 惣 二 謹記

なんさいふよい天氣なのであらう。この頃ちうの雨つゞき、暴風雨の警報まで出されてゐた後である。ゆづべの星ミ月に先づ安心したが、けさの日光のあかるいこゝ。拭つたやうにきれいな空、うつかりなるやうなかな秋びより。佳日は實に此の日のこゝである。

講堂演習が、豫定の時間を一分もたがへず滞りなく終つて、御機嫌うるはしく御退場遊ばされた後、その主任ミしてほつミした私は、ひゞり講堂を出て、急ぎ足に幼稚園の方へ馳けつけた。講堂では嚴かな心づかひに緊張してゐた。幼稚園では出来るかぎりのなごやかさで御迎へ申し上げねばなるまい。子ぎも達も、平生の通りに、にこ〜ミしてゐてくれ。

幼稚園玄關脇には、幼児の一群が列んでお迎へ申し上げた。校長の御先導で、本校階上の便殿から、アスファルト道をおひろいでお越し遊ばされた。陛下には、先づこの一隊の小さいもの、不揃ひな最敬禮に、御にこやかな御會釋を賜ふた。そこからは、校長の命で主事ミして御先導申し上げたのであるが、私はつゞミ胸がこみあげて來た。此の園舎が新築せられてから、畏れ多いこゝながら、如何ばかりか今日の日をお待ち申し上げてゐたこゝであらう。震災後のお茶の水バラッ

ク園舎への行啓の時、御幼時御在園の當時のこみをお偲び遊ばされて、御説明の私へ何くれも有り難いお言葉を賜ふたこ
きは、今も尙ありくこ新らしい貴い記憶にある。庭も狭くなりましたこ申し上げるこ、そうですね、藤棚もなくなりま
したねこ仰せられ、惜しいこみをしましたね。あの下で遊んだものですこ仰せられさへした。その後幾春秋。場所はお茶
の水から此の大塚へ移つたが、園舎も立派に出来上り、庭もいろくこ設備せられ、あの昔からの藤も、焦土に再生した
新芽を育て、大きく茂らせたのを、移し植ゑて棚造りしてある。此の復興の新園をこ、畏れ多い望みながら、何よりも何
よりも 今日をお待ち申し上げてゐたのである。

第一室は、年少組の「木の葉の観察」である。(指導、新庄保姆)。室の一隅には幾抱へものいろく木の葉が、太い粗
い枝のまゝ、ばつさりこ立てかけてある。そこから回字形に机が排列せられて、木の葉の形を切り紙してゐるもの、青い
葉、黄い葉、紅い葉こクレヨンを使つてゐるもの、作つた木の葉をキビガラの棒にさして、砂箱の山に林をつくつてゐ
るもの、木の葉をこりくこ紙に貼りつけてゐるもの、白い紙の上に木の葉を置いて、こまかい金網から繪の具をふりか
け、さまざまの葉の形を白抜き繪にしてゐるもの、それくのグループがせつせこ働いてゐる。その幼児達に近々こお話
しかけになり、何んの葉ですかなここ優しくお尋ね下さりながら、實物の教育ですなこ私を御顧み仰せられた。観察の本
義を御覽下されたのであつた。

第二室も年少組で、「八百屋こ魚屋を主題こせる誘導保育」である。(指導、及川保姆)。一方の壁寄りに、板造りの小形
の店が二つ竝んでゐて、一つには「ヤオヤ」こ大字の横看板が出てゐる。その隣には、バナナこ林檎を美しく毛筆で描い
た吊り看板がさげてある。字も繪も幼児のものである。八百屋店には、棚に煙草の空罐でつくつた罐詰類が置いてあり、

下には紙づくりの野菜や果物が澤山列べてある。魚屋の方には、ドツシリした白塗の冷蔵庫までそなはつてゐて、店一ぱいに各種の魚が列べてある。一枚紙の痩せ魚もあり、綿をつめた肥え魚もある。章魚が赤い顔をしてすわつてゐるのも面白いし、一々造主に聞いて見なければ名の分らない珍魚も可なりある。店頭右寄りには、鹽鮭の大きいのがぶらさげてある。夕方近い町通りのせわしないやうな空気が漂つてゐるのも妙である。子ぎも達は、それ／＼自分達の店のために先づ仕入れをしなければならぬ。それには築地の魚市場へゆこうか。神田の青物市場にゆこうか。子ぎも達は、そんなおつ／＼くうな遠方まで買ひ出しにゆくより、魚でも野菜でも、さつさつ作つては店に持ち込む魔法を知つてゐる。この部屋では、今その魔法に一心不乱なところである。たゞ一つ／＼を作るために作るのではなく、店のために作つて居ります子ぎも上げたら、作らなければならぬと言はれてゐなくてゝすね／＼仰せられた。畏れ多い言葉ではあるが、誘導保育のころを、ちやん／＼お見ぬき遊ばされたのである。

第三室は年長組で、「動物園を主題とする誘導保育」である。(指導、小島保姆)。幼児達は直立の敬禮を終る／＼、直ぐ、さつきからの仕事の手ぎきを始めた。鋸で／＼／＼ミ木を切るものがある。こつ／＼／＼ミ釘をうちつけるものがある。その騒々しい響の中へ、子ぎもの型ぎつた動物の顔を實習科生が機械ミシンでスウ／＼／＼切つてやつてゐる音や、動物の體を塗る粗い刷毛がペンキを入れた小バケツにがた／＼／＼／＼當る音まで交つてゐる。大きい子達で御座いまするし、少し荒い／＼／＼をいたさせます／＼は申し上げながらも、聊か騒し過ぎるか／＼恐懼してゐる／＼、そのおい／＼／＼もなく、空箱の四角い胴に、棒の脚をつけ、頸をつけ、それ／＼板の顔を釘で打ちつけて、虎でも、獅子でも、キリンでも、さし／＼／＼出来上つてゆく工程に御興味をひかせられた。更に、斯うして作られた動物が、室の一方にしつらへてある、上野公園のよりもハーゲンベックのよりも堂々たる大動物園の檻の中に、げに百獸の王らしく納つてゐるのをほ／＼えませられた。又、室の出口に

近く、二人の子きもが、机一ぱいにバトロン紙全紙を擴げて、全體の騒々しさをよそに、一心に、毛筆で動物の畫を大きく描いてゐるのにも、暫く御足をミだめさせられた。

その次が遊戯室で年長組の遊戯である。(指導、菊池保母、清水保母)。幼兒達は、ピアノにつれさつさつと輪をつくつて、唱歌遊戯「お星さま」を可愛らしく一ミ踊りして、次は、二列に分れて相對して「子ころ子ころ」の競技遊戯に移つた。あのあざけない足拍子、町の子きも遊びのまゝをこつて動き、兩方から一人つゝ出て、手に力を入れてひつぱりこをする眞剣さ。一段ミ御ほゝえませ給ふたやうに拜した、そして、昔はきれいな、やさしい遊戯ばかりいたしました。これは子きものふだんの遊びのまゝを取り入れて曲譜ミ振りをつけましたもので、元氣一ぱいのもので御座りますミ申し上げたら、小さい時は何より丈夫が第一ですからねミ仰せられた。此の時、扈從陪觀の人達の方に、つゝしみ深い笑ひ聲が漏れた。見るミ、兩方から出た子きもが、手に唾をつけて、全身に力を籠め、足を踏み張つて、大仕切りに仕切り立ちをしてゐるころである。かう油が乗つては貴い御前ミいふこも忘れてゐるのであらう。いゝ子達よミ、私は胸の中で嬉しかつた。それから「私のまね」に移り、御感興は盡きないやうに拜したが、限らないこゝで、遊戯室からお立ちを願つた。

廊下をもミへ歸つて、陳列室へ御先導申し上げたが、さつきから、私の氣にかゝつてゐるのは時間である。おせかせ申し上げるなきは畏れ多くて出来るこゝではない。しかし、小學校始め後の御巡覽の御豫定もある。幼稚園にあてられてある大體の豫定は、もう大分迫つてゐる。しかし、しかし、陳列室には特に御熟覽を仰ぎたいものがある。

一昨年の本校開校六十年記念式に、皇后陛下下の行啓を仰いだ時には、附屬校園御巡覽を仰せがなかつたので、陳列室には保育の實際を主として、「おもちゃ店」ミ「人形の家」ミ「大きい動物」ミを陳列した。そして、その「おもちゃ店」がお目にミ

まつて、後から獻上の光榮に浴したのであつた。しかし、今回は、親しく保育の實際を御巡覽いたゞくのであるから、陳列は、舊幼稚園の思ひ出を偲ぶものを主とした。殊に私としての小さき心には、お茶の水の土地ならば、建物は變つてゐても、御在園當時を御偲び遊さるゝのよすがもあるが、場所を異にするこゝではそれが少しもない。せめても當時の園舎の古き寫眞を、出来るこゝならば其の小さい模型を作つてゞも考へたのである。寫眞は幸に數葉蒐集保存してある。模型はそれを材料とし、それに古き幼稚園職員として當時の建物を知つてゐる小西信八氏、下田たづ氏、瀬川氏等の先輩の思ひ出をたよりし、及川保姆に製作して貰ふことにした。そして、資料の調査から、面倒な縮度計算によつて、製作にかゝつて刻苦月餘、園の外部、内部の昔のまゝを浮き出させる精巧な厚紙作りの、五十分の一大の模型が出来上つたのである。

寫眞につき御説明申し上げた次に、この模型につき御説明申し上げた。いづれも深き御感興を以て御熟覽下され、寫眞に就ては、よく保存されましたねこのお言葉を賜はり、模型に就ては、なつかしいこゝですね、思ひもかけぬ有り難いお言葉を賜つた。更に、よく出来てゐますね。うしろの方も見ませうと仰せられて、大きい臺をおめぐり遊ばされ、園の内部を見そなはせられて、こゝは先生方のお部屋でしたね。こゝは附添の部屋でしたね。こゝには色々のものがはいつてゐましたね。(古き書類や器具の入れてあつた室)なご一々御仰せられたのは、御記憶の程、感激にたえないこゝであつた。

それから、同じ室の一方に陳列して置いた「人形中心の幼児の製作品」の、無邪氣な、可愛らしい色ざりに御目を休ませていたゞき、室中央の出口から庭へ御立ち降りをお願いした。私はそこから庭全體を御覽いたゞいて、一々は御先導申し上げない豫定であつた。しかし、明るくも暗れた庭一面には、子ぎも達が嬉々として自由に遊んでゐる。殊に右手の方には、大きな汽車があつて、それに乗り降りして「神戸ゆき」なごはしやき切つてゐる。(指導、大岡保姆)左手の方では、ばら

の家で数人の幼児が繪をかいて居り、小川に木の小舟を浮べて打興じてゐる。(指導、北村囑託)。いはゞ、秋の光の中に活き／＼展開せられてゐる幼児樂園である。陛下には、私の御先導も待たせられず、先づ汽車遊びの方へ御近よらせられ、斯うして、したいこみをさせて貰つてゐるのですね。仕合せですね。仰せられ、ゞこ迄の切符かなゞ、幼児にお尋ね遊びはされ、「ばらの家」では、こんないゝ處まで出来てゐてゞお言葉あり、小川の舟遊びを御覽じては、いゝこみ、ゞ仰せられた。そのお言葉の下に、子ぎも等は元氣にに／＼遊び興じてゐるのである。陛下には、皆仕合せですね。重ねて仰せられた。はい。存分いたづらもいたさせます。餘りの有り難さに、嬉しさに、私はついこんな言葉を申し上げて仕舞つたのである。

斯くて、幼稚園の御巡覽を終へさせられたのであるが、幼児へ、保母へ、私へいろ／＼賜つた有り難いお言葉の中でも、最も深く感激した御言葉を謹記して此の盡さない文を終るこみにしたい。その一つは、皆しつかりして丈夫そうですね、ゞの御言葉。次には、皆仕合せですね、ゞの御言葉。しかも一度ならず二度ならず仰せられたのである。私は、此上もう何も一々御説明申し上げるこみはないゞ感激したのであつた。それから、私が、此の前お茶の水へ行啓し給ふた頃ゞは保育の方法も大分變りまして御座りますゞ申し上げたのに對して、少しの間に大層進歩したこみですね、ゞの御言葉を賜ふたこみは、わが附屬幼稚園ゞして、光榮之れに過ぐるを知らないのである。

しかも、此の日の何よりの有り難さゞ光榮ゞが、御巡覽の始めより終りまで、絶えず、貴くも御にこやかなる御微笑を拜したこみであつたのは、言葉につくし得る限りではない。その御光りこそは、わが幼稚園を不斷に明るく輝かしく照らしつゞけるであらう永久の光りである。

感想

下田たづ

十月二十一日、皇太后陛下東京女子高等師範學校へ行啓遊しました時、陛下御在園當時の保姆の中の唯一人の現存者として、特に拜謁を賜りました下田たづ女史に、その有難い感想を承り、廣く讀者に感激をわかつかつこころにしたのでございます。下田女史は記者の心持を諒みせられまして七十二歳の御老體にも拘らずお元氣に、わざわざ附屬幼稚園に來られまして、左の様にその感想を語られたのでございました。記者の不備の爲こゝに盡せぬ事の多いこころはお詫びしなければなりません、私共幼稚園關係者いたしましたしましてこの老齡の今も尙、斯うした熱意をもつて努めてをられる大先輩を持つてゐるこころを心から喜び、感謝し、よき後輩になるやうにつこめなければならぬ深く感じたのでございます。(記者)

私は唯あり難い、勿體ないといふ感激で一ぱいで、何も申し上げるこころはございません。

私一人に特に拜謁を賜はつたのでございます。私はその時、御案内をいたゞきまして、二階の御便殿からお出ましになります處を、二階の廣間でお待ち申上げてをりました。私がかしこまつてをりましたところへお出ましになり、校長が御紹介なさいますミ、私の前へすぐお立ち遊ばれました。そしてお低いお聲で、私に有難いお勞らひのお言葉をいたゞいたのでございます。平伏してをりました拜しました御裾から、陛下が可成り長くお立止り遊しました事がわかりましたので

でございます。一人だけ特別に御通路拜調を賜るまいふ事を伺ひましたので、前日まごをお通り遊ばしますかを承つて置いたのでございますが、この様な有難いお言葉迄賜るまは豫期してをりませんでした爲、餘りに感にうたれまして、陛下がお歩き初めになりますまごあご、自然にすつこをちらに體を向けまして奉送申し上げます様なまごになりましたのでございます。

本當に感激に堪えませんでございました。或る新聞なきには、私が最早思ひ残す事はないま申しした様に出てをりました。がそうは決して考へてをりません。年をこつた身ではございますが、何まかして健康を保ちまして、外に對しましても、内に對しましても、相應の事を致しまして、自分ましましては身をつゝしみ、行を正しくし、修養につまめて参り、有難い御恩にお報ひ申し上げ度いま考へてをります。年寄りのわかりませぬ事は若い方々に伺ひ、お邪魔になりませぬ様に、年寄は年寄の仕事があるのでございませぬから、安逸に流れない様に致し度いま存じてをります。年をこりますま兎角く安逸に流れ易いものでございませぬから、私は尙一層修養をつままして、安逸に流れぬ様にまくにいましめて、世の中に處して参り度いま存じてをります。

實にこの度の御儀は深き〜思召しに拜察申上げまして、畏多く身に餘りました光榮を存じ奉ります。そして御思をうけました、母校御師、その他皆様方の御事があごから〜思ひ浮べられました、感謝の念に堪へませぬ。

口 繪 説 明

畏れ多いまごですが、皇太后陛下が御在園當時の附屬幼稚園舎(お茶の水)を五十分の一に型つて、行啓の日に台覽に供しました。及川ふみ子氏苦心の製作です。

歐米幼兒教育視察記(三)

フレイベル館副社長
法學士、文學士 高 市 慶 雄

英京倫敦のノッティンゲヒル・ナーセリー・スクール (Nottingham Nursery School)

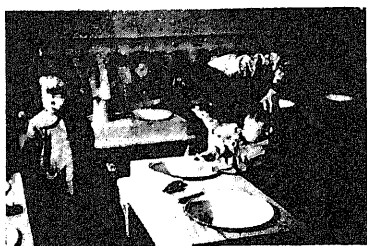
L.C.C即ちロンドン市役所教育局の紹介を以て、此の幼稚園を最初に訪問したが、戸外は未だうそ寒き本年三月十八日でありました。私は有名なマクミラン・ナーセリー・スクールの方を觀たいと思つたのですが、折しも園舎の修理改築中で、志望を達し得なかつたのは遺憾でした。私が茲に特に此の幼稚園を舉げますのは、色々の點に於て、前掲のモンテッソーリ幼稚園と正反對の傾向を持つて居つて、そのコントラストが最も著しいと思考するからで御座います。英國のナーセリー・スクールは、御存知の如く、一九一八年の「保育學校令」Nursery School Regulation によつて確立せられたもので、滿二歳から五歳迄の幼兒を保育し、我國の幼稚園と託兒所とを合體した如きものであります。このノッティンゲヒル・ナーセリー・スクールは、ロンドン市の經營に係り、收容園兒數約四十、主任、補佐以下約七人の職員が居り(職員は全部女性)、建物はモンテッソーリ幼稚園程堂々たるものではありませんが、鐵筋煉瓦造りで、ベランダ風にしつられた外氣に直接連る廣い部屋(主なる保育室)、狭い乍らも一寸した屋外運動場、相當立派な臺所と洗面場等を持つてゐる一切が英語の所謂コージイ(Cozy)といふ感じのする裝備であります。

スクールミといへば如何にも固苦しくお感じかと思ひますが、事實は其の反對で、凡てがたゞ此の「心易い」の二字に盡きて

るる、伊太利の如く一切を規則づくめにしない、またメソド(方法)に捉はるゝ事がない、園児は何等捉はるゝ所なく、ただ自由に遊びに遊ぶ。用具も一定のものなく、大型積木をやつてゐるかご思へば、砂場に居るもあり、ジャングルジムに登つてゐる者があるかご思へば自動車を押すもあり、手をつないで遊戯するものもあり、滑臺をすべるもあるこいふ風で、



ルークス・リーセーナ・ルビ・グンチツノ於けに食後就寝の有り様



ルークス・リーセーナ・ルビ・グンチツノ園児の食前のお手洗

一見實に雑然として居ります。又伊太利の如くモンテッソリ用具は全然使用せず、フレーベル用具も殆んど使はず、また勿論、劃線上を歩かすこいふ様な窮屈なる事は一切致しません(然し各種の運動具、遊具は相當豊富に備へてあります)。

では、キマリは何で附けるかご申しますか、それは「給食」ミ「休息」ミであります。即ち午前中一回ミルク、正午ランチ、食後小さいベッドを拵へて睡眠を取らせる、——これは一切一緒にする。食事の前には、保姆が懇切に世話をして手を洗ひ、食後歯ブラシを使はせる。(お晝のランチは幼稚園の臺所で調理せられます。私が見學した折は、挽肉に馬鈴薯を潰したものを混じたのですが、給食料理の栄養價に就いては、特別の科學的注意が拂はれる由。なほ砂糖は決して加へ

ず、糖分は菓子に於てのみ與へらるゝのだ相です。私は二日間に互り此の幼稚園を見學致しましたが凡て此の通りで、何等特別の事をしない、一見して自由放任主義の如く見える、之は伊太利の形式的の方法尊重の主義は正反對で、好個の對照をなして居ります。伊太利フアッシヨの獨裁専制主義は、英國の傳統的自由主義思想 Liberalism を、よく保育の上に反映して居る様に感じました。惟うに此の兩國は兩極端で、その中庸を得たるものが——中庸さいふ事は平凡の如くして實は最も難しいものでありますが——最も適當なる保育方法ではないか直觀しました。

上述の如く、ノッティンゲル・ナーセリー・スクールの保育方法は、一見雜然として何等の統制なく、如何にも自由奔放の如く見え、之でも専門的、組織的の教育機關と稱し得べきやま疑はれる。之に反して門氏幼稚園の方は、素人眼にも絢爛多彩、珍らしいこゝろ、驚嘆すべきこゝろが充ち溢れて居る様に感ぜられる。だが、それはまご迄も「素人眼」に、である。深く幼兒保育の眞諦に想到すれば、果して兩者何れが優つてゐるか、容易に斷定し難いのであります。事實、英國の幼稚園は、少數の園兒に比較的多數の保育者がかり、保姆の周到なる保育の眼と手とが、個別的によく行届いてゐるのであります。また保姆主任たり園長たる婦人は、高等の學歷を有し、園の經營に對しても、園兒の保護者に對しても、絶大なる權威を有つて居る様、聞き及びました。若し此の幼稚園の保育の外觀のみを見て、淺薄低級と判斷する者あらば、それは重大なる錯誤であるを信するのであります(此の幼稚園の保育實況をも映畫に撮つて歸りましたので、講習會席上に上映實寫せられました)。

伯林のペスタロッチ・フレーベル・ハウス (Pestalozzi Froebel Haus)

私は、ベルリンには比較的長く居りました關係上、此の幼稚園は度々見學する機會を得ました。此の幼稚園は一八六六年、即ち今から約七十年程前に、フレーベル先生の縁者(父姪に當る)ヘンリエッテ・シュラーデル女史 Henriette Schra-

Die の創立にかゝるもので、保姆傳習所を附設し、獨逸では勿論、全歐洲に於て最も大規模な、また壯麗なる幼稚園の一つであります。私はこのフロイライン・マイスター Fr. Meister 女史といふ先生に入魂に願ひ、園内を限なく拜見させて貰つた許りでなく、私的にも色々御交際をさせて頂きまして、獨逸に於てよき友を得たる事を今尙ほ喜んで居る次第であります。

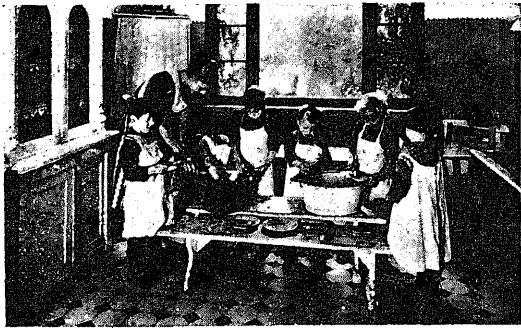
獨逸は最近ナチス黨の天下となり、特に勤勞教育といふ事を唱導し、少青年の間には、ヒットラー・ユーグンドといふものを組織し、勤勞即生活のモットーを如實に實行せしむる事によつて、國民精神を作興し、併せて國民保健、生産増加の一石二鳥的效果を狙つて居る事、皆様の御存知の如くであります。ナチスはまた、此の勤勞精神を幼稚園に迄擴充し、幼兒教育亦勤勞を措いて成立せしむるの建前から、「遊びも亦働く事によつて之をなす」といふ驚くべき主義方法を探つて居るのであります。例へばお掃除、お洗濯、整頓、寢床の出入等を園兒に手傳はせます。伊太利でも、「家庭的訓練」といふ項目を以て、同様の事をさせるのでありますが、この獨逸の幼稚園のは少し意味が違ふのであります。即ちそれを、伊太利の如く形式的でなく實質的に、即ち園兒と保姆と協力して幼稚園内の仕事をなし、それが一々實際の効果を齎す様、換言すれば、伊太利の家庭的訓練が單なる動作としてさせるで、實際の結果を目標として居らんに反し、この幼稚園では、掃除をするのは單なる動作でなく、結果が實際綺麗になる様、洗濯をしても、實際垢が落ちる様にさせる、従つて訓練に活氣があり、生きてゐるを稱せられます。それを獨逸式に組織的、統一的に行ふので、英國のナーサリー・スクールも亦、雲泥の相違があります。英國の幼稚園遣方は、組織統一なきが如くして、然も要領を得て行かうといふ方法、獨逸のは、殊更に組織統一を求めて、演繹的にそこ迄も之を押し進めて行かうといふ方法でありまして、兩國民の國民性の相違を、こゝにも亦よく保育の上に表現してゐる様に感じたのであります。

作業教育、特に木工場の設備は、此の幼稚園の特徴といつていゝ位勝れたものであります。また日光浴室で光線浴をさせたり、屋上運動場で、裸體に近い位の薄着で活潑なる體操をさせたり、等、身體保育の向上に就いても相當の注意が拂はれて居ります。獨逸の幼稚園はどこでもでありますが、齒ブラシは必ず使はせませす。凡てキビ／＼してゐる事、組織的に整頓してゐる事、科學的よそほひに武装せられてゐる事は、此の幼稚園の門をくゞる何人も感受するアトモスフィアであります。

私共が幼稚園の門をくゞるに、先づ先生がハイル・ヒットラーといふ、會ふ程の子供も同じ様にハイル・ヒットラーに挨拶



ひ洗手おの兒園スウハ・ルベールフ・チッロタスベ



濯洗おの兒園スウハ・ルベールフ・チッロタスベ



餌に鶏が兒園スウハ・ルベールフ・チッロタスベ
所るゐてへ與を

を致します。ハイル・ヒットラー Heil Hitler は、「ヒットラー萬歳」のいふ意味で、最近獨逸では一切の挨拶の言葉を廢止し、この「ハイル・ヒットラー」のいふ言葉を以て代換したのであります。朝起きるに「ハイル・ヒットラー」、道ですれ違ふ「ハイル・ヒットラー」、お休みなさいも「ハイル・ヒットラー」、車掌が切符を切りに來ても「ハイル・ヒットラー」獨逸人は、否、外國人でも獨逸に居る限り、朝起きてから夜寝る迄、ヒットラー、ヒットラーを言つて居る譯であります。ナチス黨の宣傳の爲めであるとはいへ、此の標語を幼稚園に迄及ぼし、いたいけなき幼児の口にする強いられてゐるのは、寧ろいたましく感ぜられました。

英詩のリズム

東京女高師教授 曾 根 保

一六

明治十五年に出版された『新體詩抄』の序文を見るにその一節に、

唐の横町の毛唐人が云ふには、「大凡物不得其平、則鳴、草木之無聲、風撓之鳴、水之無聲、風蕩之鳴」云云、「人之於言也亦然、不得已而後言、其歌也有思、其哭也有懷、凡出乎口而爲聲者、其皆有弗平者乎」云。我邦にも長歌だの三十一文字だの川柳だの支那流の詩だのミ、様々の鳴方ありて、月を見ては鳴り、雪を見ては鳴り、花を見ては鳴り、別品を見ては鳴り、矢鏢に鳴り散らすミも十分に鳴り盡すこゝ能はず。

ミあつて、外山正一、矢田部良吉、井上哲次郎の三博士が従來の詩歌の形式を憚らず思ひ、全然新しい詩形を創始せんとして革新運動を興された往時の氣慨が窺はれて愉快である。この詩集に盛られた作品が、詩ミしてきの程度まで

成功してゐるかは暫らく措き、今日われわれの所謂「詩」、即ち和歌、俳句ミ對立させて呼ぶ詩がこゝに起源をもつてゐるこゝは、注目すべき事實であるが、その新しい詩形なるものが、英詩から輸入されたこゝも明白で、十九篇の作品中十三篇までが英詩の翻譯なのである。日本の現代の詩を歴史的に觀察する時、『新體詩抄』は極めて重要な役割を演ずるのであるが、又同時に英詩の影響をも考に入れなければならぬ。それはミもかくミして、山仙士譯の「一里半なり一里半、並びて進む一里半、死地に乗り入る六百騎」の一篇は當時最も人口に膾炙した詩であるが、これミ並んで尙今居士の『グレイ氏墳上感懷の詩』(Thomas Gray: *Elegy Written in a Country Churchyard*)も有名であり、又巧みな譯しぶりでもある。その冒頭の一節を引用してみよう——

山々かすみいりあひの 鐘はなりつゝ野の牛は
徐に歩み歸り行く 耕へず人もうちつかれ
やうやく去りて余ひさり たそがれ時に残りけり
原詩は

The curfew tolls the knell of parting day,
The lowing herd wind slowly o'er the lea,
The plowman homeward plods his weary way,
And leaves the world to darkness and to me.

こあつて、一行は譯詩では七五七、或は五七五の語數におさめてあり、調子が可成り速くなつてゐるが、それでも一くさり一くさりをゆつくり讀んで行くこ、遠景から中景、近景を導かれ、靜かに暮れゆくたそがれの中にたゞ獨り佇んでゐる己を見るやうな感じがする。原詩の各行はテンポが甚だのろく、靜かに暮れゆく、さみしい氣持が横溢してゐる。その氣持をわれわれに與へるものは思想、即ち言葉のもつ意味なのであらうか、それとも何かそれを助けてゐるのであらうか。その美は決して意味だけからではない。嚴密に言へば、意味(sense)の音(sound)が投げ込まれた一種の形式にあるのである。グレイは賢明にもこの形式を

よく心得てゐた。言葉の意味だけが描き出すこの夕べの景色も、繪ミしては未完成のものであらう。又現代人には刺戟の足りない、古臭い骨董品ミして見えないかもしれない。しかし現代人に合ふ合はぬは別問題ミして、その音の醸し出す美によつて出来上つたこの夕景色は申分のない、黑色鮮やかな一幅の繪である。ミレーの『晚鐘』も想ひ出されるが、われわれ東洋人にはグレイの黄昏で十分満足出来るやうに思ふ。言葉の選擇、抜きさしならぬ措辭、さすが推敲に推敲を重ねたほごあつて寸分の隙も無いやうである。試みに次の四行を聲を出して讀んでいただきたい。

The curfew tolls the knell of day,
The lowing herd wind o'er the lea,
The plowman homeward plods his way,
And leaves the darkened world to me.

これを原詩ミ比べてみるこ、意味に於いて大した相違は無いが、第一つまつた感じがして、せましく、和やかに暮れゆく黄昏の氣持ミいふものが全く失はれてゐる。原詩は curfew tolls ミいひ、又 tolls the knell ミいつた風に寧ろ古めかしい言葉を重ねて、落ちついた氣持を出し、

第二行、第三行なごの音を巧妙に響かせて和やかさをもたせ、wの音さへもあしらつて意味の音が憎々しいほど

に調和してゐる。即ち第二行にはwの音を忍ばせ、第三行にはwのかげにiの音を置いて次の行の *leaves* に移つて行くなご實に妙を得てゐる。又 *plods* にアクセントが落ちてゐることも見逃せない。もしこの中で意味から、又音から言つて一番弱い言葉があるとしたら、*parting* であるが、グレイはこれによつてももの靜かな氣持をねらつてゐるのであらう。又第一行の *the knell* が *a knell* であつたら、その次にわれわれは必然的に *pauses* (休止) を置くのであるが、グレイは *the knell* として休止を許さない。又第四行の *leaves* …… の間にも休止の餘地がないから、各行のリズムは途中で切れることなく行末まで流れてゆく。尚行末の音が交互に韻を踏んでゐるため、全體が更に音調よく、ゆつたりとした靜かなリズムにわれわれは魅せられるほどである。しかし、音だけが如何になだらかであつても、賞めたことではない場合もある。たゞはばロングフェローの有名な『人生讃歌』の初めの二行

Tell me not in mournful numbers,

Life is but an empty dream.

は聲を出して讀むと、實に輕快なリズムを感じるが、それは餘りにも單調で、しかも落ちつきが無く、輕薄な調子にさへも聞える。筆者がその昔、中學生時代に愛誦したこの詩に近來甚だ物足りなさを覺えるに到つたのは、このリズムの淺薄さによるのではないかと考へられる。さて、グレイの『悲歌』の、音の方面に於いて注意すべき點は大體以上で盡きると思ふが、次に、初學者のためにいさゝか字句の解釋を施して置く。

curfew は古代フランス語の *couvre feu* (= cover fire) から來た語で、昔焚火や燈火を消して就寝すべき合圖として、夜の八時か或は九時に鳴らされた鐘のことであるが、こゝでは入相の鐘、或は晚鐘といふ意味である。今日では「カーフェ」カーフェといふ言葉を聞けば必ずグレイの『悲歌』を想ひ起すといふ程兩者の關係が密接になつてゐる。*tolls* は「鳴らす」。詩では現在形を以て進行形にも未來形にも代用するので、こゝでも「鳴らしてゐる」を言つてよい。*knell* は

葬送の時打ぶ鳴らす鐘。parting は「死ぬる」「逝く」といふ意味。lowing herd は「鳴らしてゐる牛の群」。low は牛の鳴き聲にけふ。herd は形は單數形でも複數の意味に用ゐてある。從つて動詞は wind をめつて winds をしてない。wind は「あちちへ行つたり、こちちへ行つたりして歩む」の意。oer は over の音節を一つ短くするため省略形。lea は牧場(meadow)の意であるが、これは詩語 plowman は農夫、耕夫。plods his weary way は「疲れてこぼく」の道を歩む」の意。weary は人に冠する形容詞を移して人の歩む道に冠してあるが、修辭學に所謂 Transferred epithet といふもの。最後の行「天地を闇にわれに殘す」には「農夫が去つたあと」あたりが暗くなつて自分だけ獨り残つてゐる」といふ意味である。

味氣ないわざこは知りつゝも右の註釋を敢へて施したが、全體の意味がひゞ通りお解りになつたら、もう一度聲を出してゆつくりと讀んでいたゞきたい。讀んでゆくうちに意味と音とが相即不離の關係にあることも感ぜられ、意味の強いところは音も亦明瞭で、一行一行が極めてリズム

に富み、音の高低或は強弱がはつきりしてゐることに氣づかれるであらう。即ち各行は何れも弱い音と強い音とが交互に並び、弱い音と強い音とを一つの單位とすれば一行は五單位から成り立つてゐることがお解りになるだらう。英詩の詩形に就いて何等知識の無い人でも、この四行に弱い強い弱い強い音の規則正しい波のあることに氣づかれるに違ひない。この波、これが即ちリズムである。以下多少講義めいて來て恐縮であるが、英詩を眞に味はふ上にさうしても知つて置いていたゞかねばならぬ事柄であるから、リズム及び韻律に就いて大要を述べることしよう。

リズム(rhythm 律動)は強弱、上下、高低、左右、緩急、遲速、明暗、表裏なき、すべて拍節、節奏、間隔を以て萬有一切を支配する玄妙な運動の法則で、大まかに言へば、時間に於ける反復の齊一である。タイムに依つて左右せられる現象でリズムを示さないものは恐らくあるまい。陰陽、動と反動、天體の運行、四季の循環、晝と夜、潮の満干、波の起伏、樹木や枝の動搖、何れもリズムの存在を證明してゐる。

リズムは又われ／＼の身體をも司り、呼吸、心臓の伸縮、脈搏、左右交互の運動なきに存するばかりでなく、言葉の自然の抑揚の中にも現はれる。即ちわれ／＼は強弱、強弱、或は長短、長短といふ風に交互に發聲する傾向をもつてゐる。これはわれ／＼の内性を支配するリズムに従つたものに外ならないので、精神内容が情緒的であればある程、リズムミカルミなり、その様式は明瞭ミなる。その反対に情緒が弱ければ、それだけリズムミカルでなくなるのである。情緒に押し流された時の言葉は著しくリズムミカルである。しかし日常の會話に於ける言葉にはリズムの様式が左程明瞭ではないが、獨語の形になり、演説中の修辭的な形のものミなるミ愈々明瞭になる。散文の中に韻文即ち律動的表現様式に近い形を發見する時には、その中に情緒の要素が伴つてゐるのである。

萬物の中心にある是等の自然的リズムは何れも絶対のもので、客觀的である。即ち人の心によつて感知せられるが、もミ／＼心によつてこしらへられるものではない。しかしわれ／＼がリズムを好む本能は極めて固有のもので、

何等客觀的實在を有しない場合にも、われ／＼の心はリズムを創り出す傾向を有する。かくの如くにしてこしらへられたリズムはこれを自然的又は客觀的リズムに對して主觀的リズムミ稱するこゝが出来る。リズムに就いて相當な想像力を有する者であれば誰でも、全然等しい刺戟の一聯、及びわけても平等の音の連續に勝手な配合をこしらへるこゝが出来るであらう。この能力の存在は韻律の効果を創り出し、又受け容れるための何よりも重要な要素である。この原理は、時計の音を初めは二音をグループミし、それに交互に拍節を置き、次第に音數を増して律動的想像或は記憶の限度にまで及ぼしてゆけば容易に證明されるであらう。そしてこの方法によつて、われ／＼の言葉の音には實際に適用の出来ない程こみ入つた型は勿論、英詩の韻律に使用されてゐるさのやうなりリズムの型をも、想像に於いて創り出すこゝが出来る。われ／＼の律に對する知覺は練習により發達もし、洗鍊もされるものである。人類の言語は巧利的及び審美的の二つの重要な職能に従ひ、一方實際の用辨の手段ミして、他方響應、交際及び自己表現なごの手

段として分岐して来たもので、前者に於いてはリズムは重要でなく、大いに消滅し、後者に於いては、それは保留されて世界の偉大な人種の韻律的藝術語の根柢になつてゐる。哲學者はリズムを稱して宇宙の pulse なりと言ひ、古代ギリシア人はこれを神の御手のものと言つた。この神祕なりズムが詩の呼吸であり、その存在の法則である。

韻律 (metre) とは齊一なりズムが言語の音に表はれたものを謂ふ。故に韻律を決定するリズムの單位を見出すためには言葉の音の最も單純なもの、即ち一つの綴音 (syllable) に就いて考へる必要がある。換言すれば、一つの詩の韻律を定めるための第一歩は、先づその一行をとり、これをそこに含まれてゐるだけのシラブルに分けることである。

尙、韻律に就いて述べなければならぬことは多々あるが、今はこの邊で打切り、又再び之に歸つてグレイの「悲歌」を読み直すことにしよう。この詩の韻律を求めめるため、其第一行をシラブルに分ける三十のシラブルから成り立つてゐる事がわかる。今アクセントのあるシラブルミアクセントの無いシラブルをそれぞれ、×の符號で示すこゝ、

×、—×、—×、—×、—×、

となつて弱強の綴が五度反復されてゐる。かうしたリズムの time-unit をなす二個或は三個 (英詩に於いては一般に三個以上の時は殆んど無いといつてよい) の綴音の一组を foot (韻脚) といふ。英詩に於いて主として用ゐられる韻脚は次の四種類である。

上昇リズム

(1) Iambus [抑揚格] (×、) (例 'begin, alone, tonight)

(2) Anapest [抑々揚格] (××、) (例 'disappear, to permit)

下降リズム

(3) Trochee [揚抑格] (、×) (例 'gentle, talk to)
(4) Dactyl [揚抑々格] (、××) (例 'merrily, after the)

尙この外に準韻脚を稱するものがあるが、次回に述べることにして、ここで又三たび「悲歌」に歸つていたゞきた。各行何れも上昇リズムで、抑揚の韻脚五個から成立つ

てゐるから、この詩の韻律は専門的に言へば iambic pentameter (抑揚格五韻脚) である。リズムは耳によるのであるが、眼についていへば丁度壁紙の模様のやうなもので、整然と草花の模様が繰返されて一つの型を成してゐるのと同じである。『悲歌』の四行もその第一行の反復で(一行が既にフットの反復であるが)又この詩全體三十二節もこの四行の反復に過ぎない。故に一篇の詩のリズムは韻脚(foot)に發して詩行(verse)となり、何行かを集まつて節(stanza)をなし、そして全體を構成するのであるから、學者によつては第一の單位、即ち foot を第一リズム、詩行を第二リズム、節を第三リズムと名づけてゐる者もある。その三つの者は緊密に關係してゐて、第三リズムを成すには第二リズムの組合せに更に技巧があつて、行末の音を一致させ、ここに漢詩にみるやうに、押韻といふものが生ずる。『悲歌』の場合では day の way、lea の me が互に照應して微妙な調和を保つてゐる。

以上はリズム及び英詩韻律の概要である。尙詳細は次回に於いて述べることにする。

日の入

一

お日さま

だんだん低くなつて、

お家へかへるわ、

ごらんさい

かへりさうだわ。

二

あれ火ね、

お山の向ふ側、火ね、

お山、燃してるの？

(三歳四ヶ月兒の自由詩)

兒童心理學文獻抄 三

牛 島 義 友

子供の社會生活

て行くのである。

一人で遊ぶ云ふのは子供の遊び方ではない。家でみんなに止めても近所の同年輩の子供の所に出かける。兄弟で

もるない限り子供を家庭に閉ぢ込めておく事は正しいやり方ではない。否多勢の兄弟のある所でもその社會性を教養するには幼稚園に入れる事が最も好ましい。

子供は誰ミでも親しくなるが又子供程よく喧嘩するものはない。大人の眼から見れば子供の社會生活は實に危機に類した今にも爆發しさうな状態を絶えず繰返して居る。併しさうはらくする必要はなく、入らぬお節介は差控えた方がよい。子供の社會は大人の社會と本質的に異なる。子供はその毎日の遊びや争ひに依つてその社會性が陶冶され

ウィスリッキ、幼稚園児の社會的行動の觀察(S. Weis-

itzky: Beobachtungen über das soziale Verhalten im Kindergarten Zeit. f. Psychol. Bd 107 1928)

ウィーンのさる幼稚園、此處には三歳から六歳迄の三十六名の幼児が遊んでゐる。彼等の親は下層階級に屬してゐる故に、日本ならば託兒所の子供と對照させて讀んで行かれ度い。

子供達の社會關係は非常に流動的である。ある遊び友達の關係が出来たかと思ふと直ぐ毀れてしまひ、年長の兒童達に見られる様な強固な社會關係なきは存しない。三回に互り合計三時間子供の自由時間の様子を觀察して見るミその間に全部で一七三のグループが出来、一時間に五十八組

出来る割合である。三十六名で五十八組であるから一人が一時間に平均一・六組に屬する事となる。同じグループが一時間以上も續いて一しよに遊んでゐる云ふ事はなく、その間に子供はぎんぐ入れ代つたり、或ひは解散してしまふ。

此の一七三組のグループの構成状態を見て見るに次の如く二、三名から出来てゐる者が半数以上もあり、餘り多人數の仲間は少ない。十人以上が組になる事は全く見られなかつた。中には一人ぼつちで遊んでゐる子供も見たが、(表の中の一名云ふもの)之はごく年少の場合にのみ見られ、六歳の子供には斯る獨行者はゐなかつた。之によつて見るに子供達は充分社交的であり、常に誰か遊んでゐる。孤獨を好む云ふのは青年期に至つて初めて現はれる現象である。

| 組 | 一名 | 二名 | 三名 | 四名 | 五名 | 六名 | 七名 | 八名組 |
|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| % | 一〇 | 三六 | 二二 | 一六 | 五 | 五 | 五 | 一 |

次に如何なる動機で此のグループが成立するかを調べて見たら大體三種類を區別する事が出来た。

一、物を中心とした組の組成—玩具、人形、鞆等が子供を結び付ける媒介物となり、之がある間は一緒に遊んでゐるが、之がなくなるに解體して他の仲間に行つてしまふ。

二、活動を中心にした組の組成—一人の子が走り出すに他の子もそれについて走り廻つたり、一人が歌を歌ひ出すに他の者も之に和して歌ひ乍ら遊ぶ云つた風に、同じ動作が活動を中心として組が出来ることがある。

三、人的接觸による組成—之云つた活動もなく又中心となる玩具もないのに數人の子供が一緒に寄つて話したり何かしてゐる事がある。此の會話は樂しげに續けられる事もあり、又口論になる事もある。併し斯るものはごく僅かであつて而も年長の子供にのみ現はれる。大部分の者は初めの一、二のやり方で組を作つてゐる。

新參者は子供の社會からも敬遠される。併し特にいぢめる云ふ譯でなく、只無視して自分達達が樂しさうに遊んでゐる。此の事を新參者の方も大して氣にしないで、玩具等を持つて一人で遊んでゐる。かう云ふ状態が普通三日間位續く。併し時によるに敵意を以ていぢめられたり、一寸

した失敗をしてもひさく皆からいぢめられる事もある。新
参者が元からの者ミ接觸する様になるのは多く偶然の機會
から起る。例へばボールが新参者の方のころがつて行き、
彼がそれを拾つたミ云ふ事から彼がそのボールの組に入る
事が許可されたり、或ひは新参者の持つてゐる變つた玩具
に他の者が注意するミ云ふ事から接近したりする。

以上の様な子供の社會は多く單なる群であるが、時には
上下の關係が出来てゐる場合もある。さう云ふ場合の指導
者になる子供は繪がうまいミか、話が上手ミか、運動上
手、或ひは先生からいつもほめられ、模範ミされる様な優
れた才能のある子供である。そこで彼は小さな暴君ミなり
權力をふるつてゐる。例へば或る時なき皆が戸外で遊んで
ゐるのに自分一人室に残つて居り、「俺ミ遊ぶ者にはチヨ
コレートをやるぞ」ミ嘖鳴つた。それで二、三人の子供が
彼の所に走つて來たのに對し彼の云ひ草は「チヨコレート
ミ聞いてやつて來たのだらう。そんな奴は行つちまへ」ミ
云つた調子である。

ヘツツェルによるミ三歳から六歳までの子供は常に自分

より年長の子供の指導の下に遊んでゐるが、七歳位になつ
て初めて同じ年輩の子供を指導者に仰ぐ様になるミの事であ
る。

次に此の子供の社會生活に屢々現れて來る争ひに就ての
研究を述べやう。

ジャーシールド及びマイキイ、學齡前兒の争ひ (A. F.

Jensild and F. V. Markey: Conflicts Between Preschool
Children, 1935)

ニューヨークのナースリイ・スクールや幼稚園の五十四
名の幼兒に就て觀察する。自由の時間に一人の子供を十五
分間詳細に觀察しつゞける。斯る十五分間觀察を一人の子
供につきそれ〱十回宛行ひ、その結果から子供の争ひ喧
嘩ミ云ふミ少し大げさになるが、ミに角二人の子供の間が
敵對的關係になつた場合を觀察する。例へば他人の物を取
らうミしたり、言葉や身振りで威したり、無理に命令した
りするやうな争ひの場面を見る。その結果全體で一五七七
回の争ひが見られたが、之は一人平均三〇・九回ミなり云
ひ直すミ一人の子供は五分毎に一回の争ひをしてゐる勘定

になる。一つの争ひの平均の繼續時間は三十秒である。

此の争ひの数は人々によつてちがひ、最も多い者は一回、最も少ない者は十七回である。又此中七〇回も自分から進んで他を侵すやうな横暴な者も居るに對し、只三回しか積極的に出ない云ふ弱氣の子供もゐる。

是等の著しい數から見ると子供の社會生活は絶えず調和を缺き、波瀾を引起してゐる事が分る。併しその波は非常に小さく親が牛を出す必要のない程度の子供の喧嘩である。

此の争ひは年が進むに従つて減る(次の表に見られる如く)。尤も泣いたり叫んだりする事は減るが口論等は増して居る。即ち争の形が變化して來るのである。

同年齡同志の喧嘩が多くて年長と年少との喧嘩は割に少ない。男女別に見ると殆き差がない。併し男の方が女よりも積極的で、又その争ひの結果は男の方が勝つ。年長になるに男はさかく手をふりたがるに對し女は口を以て争ふ傾向がある。併し二歳位の所では男女の區別は全然見られない。

喧嘩の状態を次に表示するが、之は十五分間に於ける平均の現れである。「打つ」は相手を打つたり、かみついたり、耳を引張つたり、等の行動を含み、「引たくる」は相手の持つてゐる玩具を取るのであり、「口論」は「それをくれ」さか、「之は私のよ」さか、「止め」さか、「いや」さか云ふのを指し、「悲鳴」はその結果上げるものである。

| | 二歳 | 三歳 | 四歳 | 五歳 |
|-------|------|------|------|------|
| 争ひ數 | 3.4 | 3.4 | 2.4 | 1.8 |
| 打つ | 1.5 | 1.5 | 0.88 | 0.63 |
| ひつたくる | 1.9 | 2.1 | 1.4 | 1.0 |
| 口論 | 0.36 | 1.3 | 1.7 | 1.0 |
| 悲鳴 | 1.2 | 0.61 | 0.48 | 0.11 |

子供の智能と喧嘩の状態との關係を見るに大した關係はないが、大體言葉を用ひる類ひのものは智能の高い子供に多い。併し斯る智能よりも、社會的環境の影響の方が著しい。比較的下層の者の子女

が入園して居る所では争ひの數が多く、而も下等な言葉を使つたり、唾を吐いたり、組付いたりする。

又先生の數の多い行き届いた所では争ひの數は少ない。こゝでは先生は子供の間に争ひが起るを直ぐ止めに行く。

併し多くは子供が既に止めた後にかけてける様な次第である。先生は子供の争ひに對して一方を叱り、他をいたはる。云ふ態度を取る。斯る場合には子供は先生に對して争ひの態度をさる事がある。之は餘り先生が子供の争ひに干渉しすぎる爲らしい。云ふのは先生との争ひが最も多かつた幼稚園は實は子供同志の争ひが一番少ないにも拘らず先生が最も多く干渉した幼稚園であつた。次に斯る子供同志の争ひの起る主要な原因は、他の子供の持つてゐる玩具をほしがつたり遊び場所を横取りしたがる物である。子供が玩具を見るにそれがほしくなり、いきなり手を出してしまふのである。そのくせ相手から取上げてしまふとも興味がなくなり放つてしまふ云ふ事すらある。その他少數ではあるが行動の自由を妨害された時にそれを除かうとして争ふ場合もある。尚その他初めは遊戯的にやつてゐた動作から争ひに移る事もある。

彼等の争ひの程度は弱く根深いものでない事は前にも述べたが、繰返してなぐつたり、倒れたり、泣いたりした後でもなぐつたりする云ふ事はない。又複雑な行動即ち

相手がうつかりしてゐる時に襲ふ云つた様な事は殆どない。又永続的な遺恨を感じる事もない。兄弟同志の場合には案外に永続的な敵對感情があるものであるが、彼等の間には見られなかつた。併し彼等でも一日中同じ環境に置かれたり、或ひは教師が子供の間の競争を刺戟したり、教師が子供に餘りに親密な關係を結ぶと他の子供等が嫉妬を感じたりして兄弟の場合の様な反目の起る可能性がある。併し普通の幼稚園には斯る事は見られない。又二人の子供が組んで一人の子供を襲ふ様な事もあるが、併し此の攻守同盟はその場限りのもので永続するものではない。

以上の如く子供の社會生活は大人のそれと全く趣を異にし、社會生活を求むるが、相互の結合力は弱く、流動的であり、争ひに富んだ不調和な生活である。併し斯る不斷の相互作用の中から強固な社會意識が生れ、調和的な人間が構成されて來る。

「觀察」話を終へて

二八

山村 きよ

昨年ラヂオの放送に「幼児の時間」が出来ましてから「觀察話」が四回ばかり放送された様に思はれますがその都度さうしたら幼児に落ちついてきかせ、充分に了解させる事が出来るかこすいぶん苦心したものでございます。普通の童話と違ひ、なか／＼お話にきゝ入る事が出来ませんで、「きく態度」をつくるのに「苦勞」でございました。今度私がおのむづかしいと思つてゐた「觀察話」を命ぜられまして「ききての苦勞」でも申しませうか謂るきゝにくい事を充分知つてゐるだけに、さうしてお話の中にひき入れやうさいふ事で相當骨を折りました。ここに内容を想像して觀察させなくてはなりませんのでたゞの説明や「教へる」こいふ事をどこまでもさげ度いと思つて内容にも又話方にもするぶん注意をはらつたつもりでございます。そこで幼児には一番興味を持てる自動車と汽車を主題に取つたわけござ

います。幸ひ「動く」こいふ何より引き入れやすい内容を持つたお話で、ここに疑音等も私の註文通にお願ひ出来ましたので「靜的」な材料よりもはるかに扱ひ易くはございましたがこかくむづかしい説明になりがちでその點今だに反省させられて居ります。しかし僅か十分ばかりの放送に相當の時日を費して苦心し、「むづかしい事だ」こいふ事を體驗した今、かつてはきかせる事にするぶん苦心した事を思ひ出してこれからの「幼児の時間」をもつこゝ／＼有効に使用して行くのが私共の務ではないか考へられるのでございませう。ふだん「お話をきく」こいふ態度が相當出来てゐると思つてもあのラヂオを前にして坐つた時に人數の關係、場所のつくり方等が用意の爲にこかく氣持ちの落ちつかぬ事もありませう。第一話手の顔が見えないだけに放送の始まる前の注意こいひませうか用意こいひませうか……せひ考へね

ばならないと思ひます。事に觀察話の場合には相當に内容を正確につかませなくてはならないと思ひますので、その態度をつくるのには私達が充分梗概に目を通して心がまへをしておく必要があると思ひます、又お話の終つた後の整理は尙更必要の事かと思ふのでございます。ここに觀察話では一番大事な事ではございませんでせうか。十分間の放送が終つた後少くも五六分の整理をする材料は充分ある事と思ひます。又唱歌の時などはよい練習の氣分がつくれるる事と思ひます。私の園の幼兒も九月末の童話「黒のお客様」をきいた後など實によく發表し合つて皆の力でお話にまごまりここに細いところに記憶力を示されて驚かされました。私など一週間に二三回重ねるお話には一つ／＼充分な力を入れては出来ない場合が多いので幼兒の時間を實にありがたく思つて居ります。幼兒の爲にも私共自身の修養の爲にも實によい事であるだけにその取り扱ひには又充分な心がまへが必要であるといふ事を感じまして、放送を終つた今日、氣持の一部分をのべさせていたゞきました。次に御参考までに放送の梗概の内容をそのまゝのせさせて

いたゞきましたから、さうぞ充分御批評をお願ひ申上げます。何にしても十分間の短い時間で初めの梗概通りでは二十分もかゝつてしまひましたのでだん／＼にけづり取つてこんなに貧弱なものになつてしまひました。(昭和十一、一〇、二〇)

梗概

自動車(タクシー)―豆自動車―自轉車、三輪車、市内電車、省線電車、汽車、地下鐵、軍艦、馬、オートバイ、飛行機等をたゞのお話でなく(説明的な)又種類を數へる目的でもなく、乗つた時の感じをお話の中で味はひ、又「音のひびき」によつて想像し型の比較、物のうごきについてそれ／＼想像をめぐらしながら汽車と自動車を主題に取つて耳から入るまごころの觀察話でございます。

お話のすじは先づタクシーでラヂオの前の皆さんを自動車にのせて出發、途中最近出來た豆自動車に出會ひ次に自轉車と競走、市電のうごきを感じながら十字路にストップ、靜止してゐる乗物を觀察の後ステーションに到着する

までに乗つてゐる自動車についての部分品について話します。ステーション前では勇ましい軍馬流線型自動車に目をむけ、構内のざわめきのうちに地下鐵のひびきを感じ汽車に乗つてからは車中から省線電車、ボート、ヨット、漁船、汽船、軍艦、飛行機等すべて話し合ひの型を三つてながめてゐる感じを充分想像しながら終りまいたします。

當日の放送内容(括弧内は擬音)

皆さん、これから旅行に出かけませう。

お支度をして頂戴、いゝ事、もう自動車が御門までお迎へに來てますのよ(自)、さあ出かけませう(自)、あら、これ流線型の自動車よ。皆さんの大好きな流線型ね。おのりする前にぐるつしまわつて見ませうよ。この前の方にいろいろの機械が入つてゐるのを皆さん御存じ?。そうく〜ガソリンの入るくだや、お水の入るところ、電氣のモーターや、小さい扇風機みたいなものまで入つてゐるのよ。また後でゆつくり見せていたゞきませうね(自)。さあ今度はうしろへまわりませう。こんなにうしろの方がさかになつてゐ

るでせう。こんなになつてゐるまきてもスピードが出せるんですつて……そしてね、ほこりやごみがあんまりつかないんですつて……。こゝにタイヤのおかわりがついてゐるでせう。これ途中で故障のあつた時さりがへるのね。そして、こゝについてゐないのはこゝのまところが箱になつてゐてその中におしまひしてあるのよ。街を通る自動車にはすいぶんいろく〜の型をしたのがあるでせう(自)。さあのりませう、運轉手さんお待ち遠様でした(エンツン)(發車)あら皆さんずるぶん嬉しそうね、だつて流線型の自動車にのつてゐるんですね。あらく〜向ふからあんなに小さい自動車……あれ皆さん豆自動車く〜つていつてらつしやるけれど、「ダットサン」つていふのよ。この頃出來た新しい自動車でするぶん方々走つてゐるのを御覧になるでせう(自)、あらいゝ事、お父様が運轉手さんでお客様はお嬢ちゃんがお客様よ、私達の自動車ミすれ違ひね(自、自轉車リン〜)、あら、しらない間にここかの小僧さんが自轉車に乗つてこの自動車ミ競走してますね。ね、ごらんなさいお身體をあんなに前にして(自)(リン〜)おせなかをまるくし

て、一生懸命スピードを出してゐるでせう(自)(リン／＼)、お、あぶないあんまり一生懸命になつてもう少しでたほれそうでしたわね(市内電車)(ピリ／＼ストップ)、まあ丁度電車が向ひ合せて止つて居ますわ。タクシーも乗合自動車もオートバイも皆ストップね(ゴ／＼ピリ／＼)ほら今度は青い色に變つたでせう。市内電車の後の方に居る車掌さん何していらつしやるんでせうね窓からあんなにお身體を出してうしろ向きになつて……ボールをなほしてゐるのね、ほらボールをはづしながら向ふへまわつたでせう。あの電車、ボールが一本上つて下さがつてゐるのわかつて?、もうせんは二本共電線についてゐたのよ。この頃は一本のところが多くなつたんですつて……、まあ私達の自動車市内電車を二臺も追ひ越してしまひましたわ(自)するぶんスピードね(自)(市電トマル)。おや赤い矢印が出たでせう。きつさあの道を右の方へまがるのよ、ね、ほら矢印の方へまがつたでせう。かうしないミミツちへまがるのかわからなくつてあぶないんですものね、一寸立つて運轉臺の方をごらんさないな、ハンドルの前の方にスイッチが見えるでせう。あれ

をまわすミミツの矢印が出るのよ、そしてね、十位かぞへてゐる内に一人でおりにしてしまふの。でもね、まだ電気じかけのやいろ／＼あるんですつて(自)……そう／＼、あのハンドルの下のゴム鞠みたいのは皆さんが一番よく知つてゐらつしやるミミツころね。おすミブウ／＼つてなるミミツ。あらいつの間にかもうステーションへ来てしまひましたね。さあおりませう。今度は汽車に乗るのよ(構内ざわめき)この切符を持つてお一人づゝ順々に切つていたゞきませうね。一番向ふのホームに汽車がくるのよ(汽車發車相圖)。かけ出してはだめ、あぶないから、私の後についてゆつくりのりませうね(汽車發車)。あそこのお窓のそばへ行きませう。そしてお靴をぬいでおすわりしてゆつくりお外の景色をながめながらお話して行きませうよ(以下汽車省線)。おや向ふの線路に省線電車が走つてゐるのが見えるでせう。ごらんさない市内電車のボールミするぶん違ふでせう。私達の乗つてゐる汽車も電車機關車だから同じ様なのが屋根の上についてゐるのよ、あら／＼、ミウ／＼おひこされてしまひましたわ。でも大丈夫、あの電車が二つも三つもステーション

に止る内には私達の方が先きになるかもしれないね。ほ
ら又止つたでせう(省電止む)。(ピー)。あら鐵橋よ、するぶん
大きな川ね、お舟が一そう二そう三そう、お荷物をあんな
に澤山つんでここへ行くのでせうね(ピー)。トンネルよ、く
らくなつて電氣がついたでせう、そしてトンネルの中にも
時々あかりが見えるでせう。トンネルの中にも石ミ石ミの
間にミころ／＼電氣がつく様になつてゐるのよ。ほら又見
えたでせう。この汽車は電氣機關車だから窓をしめないで
もいければ、石炭をたく蒸氣機關車は、トンネルに入つた
ら大いそぎでお窓をしめなきや大變よ、白い煙が一ぱい入
つてくるんですもの。ですからボー／＼ミきてききこえる
ミ皆大急ぎで窓をしめるのね。この汽車も次のステーション
へつくミ蒸氣機關車ミこりかへつこになるのよ。お客様
はこのまゝで機關車だけをミりかへるのね。今度汽車が止
つたら皆さんでおりて見ませうか。あらもうトンネルを終
つて、今度は海よ、まあきれいなお水、遠くの方に白い帆を

かけたお舟があんなに澤山。あれきつミお魚をミりに行く
舟ね。あら一隻だけ違つて三角の様な帆をかけたお舟が見
えるでせう。あれヨットよ、ヨットはミても早く走れるんで
すつて……、あつ、飛行機／＼／＼、飛行機が三臺よ(以下
飛行機爆音するぶん早い)。もうちき私達のそばへ来る
様ね。あら一番先きのが水上飛行機よ。お舟の様なものガ二
つも下の方についてゐるのが見えるでせう。後の二臺は陸
上飛行機ね、戦闘機かしら、偵察機かしら、つばさの裏
に小さく日の丸が見えるでせう。そう／＼日本の飛行機ね。
いさましい事、皆さんも乗つて見たくなつたでせう。あら
あらだん／＼こつちへ来るやうね。私達の汽車の上を通つ
て、ここへ行くのでせうね。(飛行機爆音、レコード)終り。

(終りはわざミ止めませんで幼兒等の想像にまかせ、又先
生方に充分な整理をしていただき度く考へて居りました)。

『系統的保育案の實際』解説 (八)

| | |
|------|----------|
| 生活訓練 | 倉橋 惣三 |
| 誘導保育 | 菊池 ふじの |
| 唱歌遊戯 | 村上 露子 |
| 談話 | 小島 新庄よしこ |
| 観察 | 小島 光子 |
| 手技 | 及川 ふみ |

『系統的保育案の實際』は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園の編になり、日本幼稚園協會から發行せられてゐる。昨年七月以來、既に多大の部数が、全國保育界に普遍し、熱心なる保姆諸君によつて、研究せられ又實施せられてゐる。しかも此の保育案は、舊來の諸保育案、殊に單なる羅列的保育要目と全く異なり、幼稚園保育の本義に立脚して、幼児の生活に出發し、生活に就て、尙ほ進んで詳細なる解説を求められることが尠くない。

本稿は、それ等の要求に對して同人相促し、分擔して各項の解説を試みたものである。説いて詳細を盡さないのは素より、私案私説、極めて熟せざるところが多いのを恐れる。たゞ、保育案の表示のみにては一層盡さざるを思ひ、これが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ふてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質的中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものの立て方にある。内容の選擇排列も亦、一々意を用ひたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれることなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないであらう。

年少組、第二保育期

— 満四歳、満五歳 —

生活訓練

第十三週

上靴下靴の穿きかへは、幼稚園によつてそれぐきまりが違ふ。こゝでは庭靴を室内靴と區別させてゐるところから、かういふ問題が出て来る。そうでないところでは、この通りの訓練はいらないであらう。しかも、この訓練の意味は、必ずしも庭靴問題といふ狭い話ではない。斯うしたことを自らするこゝの一具體例である。お掃除といつても、お机の上、お戸棚の中、下へおりてもお庭の掃除が山々で、靴さまでは多くは下つて來ない。それを手傳はせるのである。手傳はせるのである。手傳ふといふからには、先づ主

としてやつてゐる人がなければならぬ。それは小使か、給仕か、いゝえ、先生である。先生が自らきぎもの靴の掃除をして下さるのである。それを手傳ふのである。汚い靴のこゝで尊い先生のお手傳ひをするのである。こゝの訓練の意味はこの點にある。

親が聞いたら何んといふだらうか。えつ、靴掃除。うちの坊ちゃんにはそんなことはさせて呉れるなと言つて來るかも知れない。そうしたら、斯う答へておやりなさい。幼稚園では靴掃除の稽古をさせてゐる譯ではありません。先生のお手傳ひの稽古をさせてゐるのです。自分の靴を先生

が掃除して下さるのを見ながら、平氣で知らん顔をしてゐられるやうな、そんな、汚れた靴の革のやうな堅い心もちにしたくないのですつて。それでもまだよく分らなかつたら、はつきり言つておやりなさい。靴の掃除をして何故よくないのですか。それも自分の靴の掃除を。——世には、わが子を殿様が公達のやうに育てるこゝばかり考てゐる親があるものですからね。

食事前後の挨拶。——子ぎもにさせる訓練要目としては、こゝに始めて出て來ましたが、先生は前からいつもしてゐるのでない。眞の訓練になりますまい。又、先生さへ前からそうしてゐるなら、何も第二保育期第十三週を待つまでもないこゝであらう。

第十四週

誘導保育

第十三週

紙箱の家

危険な遊びを避けるこゝは、その折そのこゝに就て、必要ならば注意を與へるこゝいふ具合でいふであらう。それを、子ぎもはまだ知らない前から、これ／＼の遊びはいけなないが、却つてそんな、危い遊びを知らせるやうなこゝはしないが、いふだらう。

こゝで、生活訓練には擧げてないが、そろ／＼お正月が近づいて來る。子ぎも達の、今一番樂しみにしてゐるのは、そのお正月である。その心のたのしい思ひを汲んで、その話を持ち出して、よろこばしてやるこゝも、心の訓練の一つである。訓練さいふのは可笑しいさいふ人もあるかも知れないが、喜びを喜びまして呉れるのを喜ばせるこゝは、相當意味のある訓練である。

紙箱、殊に深い目の紙箱は、じつと見てゐるこゝいろ／＼のもの、の主體に利用して面白い。箱の家、箱の動物の胴

等に利用するに誠らしくて、それでてしつかりしてゐて、始めから作り上げるよりは、みんなに効果的であるか分らない。さうせ^がこういふ厚紙での組立てなごは、幼児の手では出来ないから、大人が手傳つてやらねばならないので、出来る事なら、こういふ箱を利用する様にし度い。何處の家でも不用の箱は有るに違ひないから、入園の初めに、親達に廢物利用の意味で空箱利用を時々するから、捨てぬ様に願つておく。

こゝで子供等に相談を持ちかける。

「今度はみんなでもつて街を作りませう。お店屋さんの竝んでる町を作りませうね、みんなが一軒つゝお店を作るのよ、出来たらそのお店を順々に竝べるよ、いろいろのお店屋さんの竝んでる町になりますね。」

先生から御願してありますから皆さんのお家にはきつてお母様が箱を捨てないで取つて置いて下さいましたよ、それをみんな見せて頂いて、ご自分の作り度と思ふお店になりそんな箱を、いたゞいていらつしやいな」ボカツミした顔をして聞いて居る様でも、案外にひッ

いてゐるものだ。その證據には殆んどの人が忘れないで持つて来る。忘れて来ても、人を見て、次々持つて来て四五日の間には、みんなのが揃つてしまふ。

扱つていよく、製作に取りかゝるのであるが、この子供達は、一人の子として、この様な手ごたへのある製作をするのは始めてであるし、仕事の方としても、出来る箱に細工をするのであるから、全く子供だけの力では、折角もくろんでも、目的實現と言ふ事はなかく六ヶ敷い。それで始めから相談相手もなり、必要な場合には相當に助力してやらなければならぬ。この助力は、子供に依頼心を起させる導火線なる様な、助力であつてはいけない。さこまでも、子供の作らうとする心持を手傳つてやる心持であらねばならない。それが爲めには、或程度まで手を入れておいて、そこで、はたミ次の仕事の必要を具體的に實感させる、と言ふ様なテクニクを講じて見る場合も多い。こゝでいろいろ苦心させて見て、又一寸手傳つて次の必要に行き遣はせる。こうして次々必要感を刺戟しながら、又或時は、手を出さ

すには居られないと言ふ氣持から、實際の仕事を手傳つてやる事が多いのである。幼稚園の仕事は、大抵先生と幼兒の協力製作であると言つてもよい。手傳つてやる事は、その狙ひ所さへ誤つてゐなければ、ちつとも悪い事ではない。のみならず、幼稚園位の子供にはむしろ必要なのである。何故必要かと言ふに、子供の遊びの中には、よく發動に於て目的である場合があるのであるが、その中に大人が入つてゐて、その折角の目的を持ちつけてやり、又途中の仕事を手傳つてもやらないと、折角の目的が、いつの間にかふつ飛んでしまつてゐる事が多い。始終これでは、即ち目的を持つても、その目的を完成した事が無くては、遂には子供は目的を持たうごしない様な子になつてしまふ。生活を捨てしまふ様な子供になつてしまふのである。手傳は、實に子供等の目的實現をはかつてやる爲に必要なのである。

こんなわけで、是非、相談相手や手傳が必要であるので、この仕事の實際に於ては、大勢の子供を一緒に言ふ事は殆んき出来ないと言つてもよい。精々、一人の指導

者が、一時に五六人見てやれる位のものと思ふ。餘程條件を考へてやらなければならぬ。まことの幼稚園でも、何時でも言ふわけには行かない。尤も、一通りの、通り一ぺんのものを作るだけなら、何時でも、又何人でも出来るであらうが、一人に就て、心ゆくまで充實指導をし、更に誘導指導まで與へ様にするには、勢ひ少數か、指導者が多人數と言ふ事になつて来る。

さしづめ、窓をあげ様、ドアを開かうと言ふには切り抜いてやらねばならない。

お二階を作らうか、品物置臺をさうしやうかと思案にくれる子には相談相手になつてやらねばならない。

セロハンだの、色紙だの厚紙だのをふんだんに備へておいて、いつでもおいそれと與へられる様にして置く。

この仕事を始めるに、今まではんやりと體を通して見てゐる様な町通りであつたのに、目の醒めた様な潑刺さで見れる様になつて来る。先生までがそうだに、残念ながら白狀せざるを得ない。即ち社會興味と云ふものが活氣付けられ、従つて觀察と言ふ事にもなり、手技と言ふ事

も期待出来る。

この仕事は、かなり發展性を持つものではあるが、一先づ今學期で打ち切る事として繼續時間を三週間見見る。

第十四週

紙箱の家つゞき

前の續きを、今度は誰さんのお店を始め様、と言ふ工合で、今週はずつと折さへあれば、この箱の家に精進をつゞける。お店の出來た人には、中に住んでる人、品物、お店の造作にきりかゝらせる。

第十五週

紙箱の家つゞき

今週も紙箱の家をつゞける。ポツポツ完成した分は町らしく並べて置く。みんなの分が出來上つた時に、お店屋さんの種類を勘定して見たら次の様だった。

植木屋 一
果物屋 四

| | |
|-------|---|
| おもちゃ屋 | 二 |
| 自働車屋 | 一 |
| 時計屋 | 五 |
| 郵便局 | 一 |
| お菓子屋 | 五 |
| 酒屋 | 一 |
| 火の見櫓 | 一 |
| 八百屋 | 一 |
| 藥屋 | 一 |
| 人形屋 | 一 |

これ等を、今度は改めて然るべく列べて街の景に作る。子供等も改めて見なほしてよろこばしげである。

こゝで今學期はおしまひになるので、仕事もこゝで一先づ打ち切る。併しまだく發展しなければならぬ。第一、街の景物が何もないし、人も車も通つてゐない街になつてゐるから。

唱歌遊戯

第十三週

唱歌 二回

お正月(幼稚園唱歌)

もう幾つ寝るこお正月？ミ毎日々々子供たちは指折り數へてお正月の來るのを待ちこがれて居る。

「……ハヤクコイ〜オシヤウグワツ」ミ廊下を歩きながらもつ子供たちの口をついて出るのはこの歌である。

遊戯 三回

お正月(土川五郎氏振付)

第十四週

唱歌 一回

遊戯 三回

凧(律動遊戯、土川五郎氏振付)

リズムに動作がぴつたり合つて、大變氣持のよい遊戯である。

第十五週

唱歌 二回

皇太子様お生れなつた

皇太子様御誕辰遊ばされたあの日の日本國民の感激、感謝にみち〜た心持をよくも歌つてある。年毎に、新たな感激をもつてみんなで歌つて心からおよろこびしたい。

一月一日の歌

年の始めの式はこの幼稚園ではしない事になつてゐる。それにしても、お兄さんやお姉さんたちはお正月のお式にこの歌を歌ふのだ云つて、歌つて聞かせる位のことだ。

遊戯 三回

もう幼稚園へ上つてから今までに隨分色々の遊戯を覺えた。それを思ひ出し〜全部初めからして見るのも面白い。

第十三週

この週では話が一つだけ配當されてゐる。一つでなければならぬといふわけでは無いが、十二月の聲を聞く世のあはたゞしさが、自ら幼稚園にも流れて来る。先生はいろいろ考へる。おもちや屋で賑やかに店を飾ろうか、それとも繭玉をつかつて年の市にした方がいゝか、そしてそれぞれの計畫のもみに幼児も製作に忙しい。こゝでは誘導保育で街の景になつてゐるが、いづれにしてもする事が澤山ある。朝の挨拶がすむや、すぐ自ら進んで仕事にまゝりかゝる子もあらう、一度び庭に飛び出したら金輪際室にはいつて来ようししない猛者連に仕事をさせようと思へば朝を選んでさせるさいふわけで、自ら談話の形式をこつた話は機會も少なくなる。

記載してはゐないが随時随所に行はれる話し合ひは却て多くなるわけで、紙箱の家なら、誰々は何々にする、年の市

なら何を作らうかといふ夫々の下相談だけでも話はいろいろ展開するであらう。

年少組であるから、従来の製作では殆んど設定された計畫のもみに進行してゐるが、もうそろ／＼誘導保育の相談相手に幼児を活躍させる時期であるから、幼児もいろいろ意見を述べるこゝによつて發言を促される機會が多いであらう。

鳥と獸の戦争

蝙蝠の習性がそうである爲に、みんな役をふりあてられてゐるが、つまりは狡猾な行爲をにくむのであるから吳々もその點を注意して話すこゝ。

第十五週

皇太子様の御事

御誕生の折、世を擧げて歡び祝つたその時の様子を話して聞かせるもよし、お寫眞と共に御近況なき新聞に出てゐる

るのを切り抜いておいて話しても可い。

新聞に、子供に聞かせていゝ話がよく載つてゐる。切抜

観 察

第十三週

暖房設備 年長組第十二週参照

第十四週

りんご

子どもにまつては果物ミ「リンゴ」はシノニムみたいなものである。果物の観察はむづかしいと言ふのは食べられる故である。がさうか言つて繪にしてしまふミ観察の本質性は少くも半減されると思ふ。りんごならば、殊に魅力の強いりんごならば、果物店のりんごを作つたり、寫生したりした後、少しづつ子ども達とわけてもよいものであらう。さうすれば中迄観察させる事も出来る。

第十五週

暮の町

いて用意しておく事は保母ミしての不斷の心がけの一つであると思ふ。

誘導保育で紙箱の家が出来、それを並べて町が出来る。

ちやうど年の暮だ。その町をそのまゝ暮の装飾しても面白い。さうしない迄も暮の町はあはたゞしいが何がなし楽しいのを、銘々の通る、又は住む町を、みんな飾がしてあつたかみて來させて發表させるのも面白い事である。又幼稚園の近くの町を一しよにみに行つてもよい。

冬至

時間の経過に子ども達は割合に無關心である、さいふのは子ども達の生活が具體的である爲であらう。しかしこのごろは一年中で一番晝間が短くて夜が長い。即ち早く暗くなつて、朝明るくなるのがおそいさいふ事を話して冬至の意味を知らせる事はいゝと思ふ。これはさう観察させるかさいふより氣候ミか天體ミかは時間ミかに關心を持たせる

第一歩の話である。つけ加へて冬至の日の家庭に於ける行

事も話さう。

手 技

第十三週

自由畫 羽子板 二回

ボール紙製羽子板、或は普通の羽子板に、幼児に自由に模様をかゝせる。

鈿仕事 羽子板 一回

色模造紙を數種用意して、各兒に羽子板の形、その模様をかゝせ、切りぬきてはる。

ぬりゑ モヨウ 一回

製作 紙箱の家

誘導保育案による箱の家製作

各兒の家庭よりボールの空箱をもつてきてもらふ、一人二人ミ持參せるものより家をつくりはじめる。

始めに先づ何店をつくるかを決めさせる。看板、店の棚なきつくる。次に商品をつくる。空箱の種類は何でもよ

いのであるがあまり淺いものは立てる事が出来ないのので下駄の箱位が最も適當なものである。

第十四週

自由畫 新年用繪ハガキ、羽子板 四回

畫用紙をハガキ大の大きに切り一人の幼児に數枚つゝの割にかゝせる。新年のものさいふ注文ではあるが幼児には新年の感の割合に強くないので結局自分の好きなものをかく事になるのである。かけたものはお友達や親類の人にあげるやうに各幼兒の家庭にもつてかへさせる。

製作 箱の家つゞき

順次箱をもつて來た幼兒から作りはじめる。作つてゐるものはつゞきをつくらせる。

第十五週

製作 箱の家

箱の家をはじめてから三週間、簡單ながら各自の思ひ思ひのさゝやかな店が出来上りました。机の上に順々店をならべて一つの町が出来上ります。店の前を走る電車

や自動車なども出来れば喜ぶでせうし、先生の方でそれをつくつてやつてもよい。

年長組 第二保育期

— 満五歳、満六歳 —

生活訓練

第二保育期も年末が近づいて来るミ、世間並みに忙しくなつて、生活訓練ミころでないミいふのか、すつミ空欄になつてゐる。幼稚園には暮も師走もない。そんなに慌しいミはなしだミいはれるか。それもそうだミするミ、或は、來年の小學校入學が近づいて来て、それで訓練ミころでなくなつてゐるのか。年長組だミあつて見れば、或はそんな

ここかミも思はれたりする。

ミ思つて、次の頁をあけて見るミ、第三保育期の一月早早いろくの訓練が始められてゐる。してみるミ小學校入學の準備のために、十二月一ぱい訓練休業ミいふ譯ではなかつたミが分つた。

それなら何故こんなに空欄つゞきになつてゐるのかしら

こ、よく／＼考へて見たら、そうか三分つた。それは解説
子に、年末休暇を與へるためであつたのである。たゞそれ

誘導保育

第十三週

蝶

胴を裏表二重にして、羽根が上下に動く様に工夫し
た。觸角も二本つけ、之も動く様に出来る。

色塗り、切り抜き、——子供の仕事

ぬひつけ——大人の仕事

第十四週

さうなす人形

さうなすの胴に、女の子の上半身が乗つてゐる繪。す

つみ以前に、外國雜誌にぬりゑとして出てゐたもの、

之を原型にして、女の子の胴が前後に動く様に工夫し

た。

クリスマス家の

だけで別に何んの譯もないこゝであつたのである。

玩具展覽會で見たもの。サンタクロースのお爺さんが、

おもちゃの一つばいは入つた袋を擔いで、家の煙突か

ら出たりは入つたりするもの。サンタお爺さんは、幅

三センチ位、長さ二〇センチ位の厚紙の尖端に付いて

居り、之が煙突を上下する様な仕掛けに工夫されたも

のである。之は切紙の仕事もは入つてゐる。時節柄で

もあり、子供等に大變よろこばれる。

第十五週

かばん

ラシヤ紙を用ゐた。女の子には、女の子らしい色のを、

男児には男児らしいものを與へた。形は、三つ折りに

して、一番上に出る所の形をいろ／＼にした。チュール

リップの花びらの様な形、櫻の花びらの様な形等に。

そして、折り疊んで外側になる所の二面に、各自好きな切紙をさせた。

之でいよいよ豫定したものが全部出来た。手や足の

唱歌遊戯

第十三週

唱歌 二回

電車と汽車(コードモノクニ)

歌詞の二番で、汽車は弱蟲だ云ふ取扱ひは如何かと思ふが、全體の調子がよく、氣持よく歌へるので、子供たちは好んで歌ふ。

オシャウグワツ(エホンシャウカ)

もう一つの年少組で習つたお正月の歌の方が、古くから歌はれてるだけに親しまれてる様だが、これを歌つてお正月を迎へるうれしい氣持を表はすには變りなく、お正月のうた云ふミニ子供の聲が一段と活氣づくのはほほ笑ましい限りだ。

動くものばかり、みんな自分達の拵へたものばかり、

みんなで七種、之を最後に出来たかばんに入れて、喜んで、今學期のおしまひの日に家へ持つて歸る。

遊戯 三回

オシャウグワツ(記事参照)

第十四週

唱歌 三回

凧(をさなごのうた)

皇太子様お生れなつた

年少組と同様。

一月一日の歌

年長組にもなれば、大抵は兄弟の歌ふのを聞覚えて知つてゐる。たゞよく世間でふざけて變に歌はれてゐるのを、正しいの知らずに真似て歌つたりする子供もゐるので、この際先生が正しい歌を歌つて聞かせることは必

オシャウグワツ

♩=108

一. オ シャウグワツ ガ ク ルー ト ヒ ト ツ オ トー シ ガ
 二. オ シャウグワツ ガ ク ルー ト タ コ ラ ア ゲー タ リ

オ ホ ク ナ ル ウ レ シ イ ナ ウ レ シ イ ナ
 ス ゴ ロ ク シ タ リ ウ レ シ イ ナ ウ レ シ イ ナ

要であらう。

遊戯 二回

前のおさらひ。

第十五週

唱歌 一回

遊戯 二回

お休み前に一度組全體の子供たちと相談をして、あらかじめプログラムを作り、好きなものを歌つたり、遊戯をしたり、又お話をしたりして、お菓子でも頂きながら楽しい一ときを過すのは嬉しいものだ
 又寒い時には先生も仲間に入つて、元氣一杯で競争遊戯をするに大變暖かくなる。

オシャウグワツ 戸倉ハル氏振付
 エホンシヤウカ

準備 一列圓形を作り内方を向く。

一 オシャウグワツガクルト

皆手をつないで軽く上下に振りながら圓の中心に向つて八歩進む。

ヒトツオトシガ

手をはなし拍手しながら八歩さがり、元の位置に戻る。

オホクナル

左手の指を順に折り、右手の人さし指をそばに持つていつて両手軽く動かしながらかぞへる様子をする。

ウレシイナ

右足から圓周に沿つて體は中心をむけたまゝ右に横に歩く。それと同時に左手を體の側面から頭上を通して右肩上のところで右手ミ合はせ最後に拍手一回行ふ。

ウレシイナ

前のウレシイナと同じ動作を左に行ふ。

談話

第十三週

文福茶釜

動物が化けて人間の動作をする話は随分多い。話を作る

二 オシャウケワツガクルト

一番ミ同じ

タコヲアゲタリ

両手でたこの糸をしつかり持ちこれをひきながら八歩後にさがり元の圓周上の位置に戻る。顔は上の風の方にむけて。

スゴロケシタリ

自分の位置に立つたまゝ兩掌を少しふくらませて合せ中に賽を入れたミしてかるく右、左、右、左ミふる。

ウレシイナウレシイナ

一番ミ同じ。

上にも誠に易々して事が運べるので、よく昔から狐や狸が化けた話があるが、いつ迄續いてゆくものかと思はれる。多くは化けて人を欺したり、悪事をしたりするが、

文福茶釜の狸はその點誠に善良でしかも義侠に富み愛すべき狸である。かち／＼山の狸は悪の一貫でもあるし、その報いが餘りにも残酷で、誠に話しにくい。それに比べていゝ化け方であるから、陳腐の厭ひがあるが、かうした日本昔話を次々傳へつゞけてゆくのも一つのつぎめであらう。

第十四週

ロビンソン漂流記

全部を五回に分けて、この週は始めの三回位を話す。この時期になれば、昨日きいた話、一昨日きいた話は覚えて

観 察

第十三週

からすうり

木の葉が殆ど散り切つた頃、やぶの中等に赤い提灯の様に下つてゐるからすうりは何だかファンタスティックな、

野趣あるものだ。都會の子さもは知らないことが多い。私達

るよう。みんながみんな筋道りは把握してゐないにしても、次の話をきいて、突然の感を受けるような事は無い。然し、さうは思つても、話す方から云へば順序として、昨日やめておいた處を再び繰り返して、そこから始めることだけは是非しなければならぬ。

この長い話の中で不自然なきころ、誇張しすぎた處が一點も無いこの話は、その堅實性が却つて興味を惹くらしく、この話をしたあゝ幾度かせがまれる。その度にくり返して話してゐる。

は氣をつけて斯うした野のものを集めて親しませ度い。この塗り繪をさせる時のお手本は實際のものを用ひ度いものである。名の如く葫蘆科の植物である。

冬眠中の蟲

急に冬眠中の蟲を見せ様として土の中をひつくり返して

も見當がつきかねる。前からの用意の一例として、もつこ早く秋の毛蟲を飼育する。するま土の中へさなぎになつてこもる。それを見せて死んでゐるのではない事、春の爲、土の中で冬を越す蟲のこみを話す。これは飼育も子ぎも達し一しよにするのである。又繪によつて蛇や蛙の冬眠に話を進めてもよい。

第十四週

おもちゃのいろく。

動くおもちゃをつくるので、その前にする観察。主として動くおもちゃについて動く原因をみせる事にする。機械に對する興味をねらふこでも言はうか、ゼンマイ仕掛、バネ仕掛、ゴムによる、これ等の原動力から動くに至るメカニズムをみせる。斯うなつて斯うなつてこの足が動く、この車が動く、こいふ様に。

みかん

果物の觀察としては割合に都合よく出来る材料である。

これでは果物こいふものを中迄觀察させられ易い。成可く數多くみかんを用意して自由畫こか缺仕事こかの作業こむ

すびつけて外の觀察をさせたら愈々中である。すぐさま皮をむかずに枝付の部分をもつてその下の小さな白い突起を數へさせる。先生のを數へて皆に發表し、他のを數へさせて覺えておかせ、皮をむいた時中の袋の數こ比較させる。中の袋の數は數でA兒の、B兒のこ比較させる。あこは袋を出して分けてやるもよし。女兒のお手傳ひでみかんゼリをこしらへるのも楽しいここであらう。

第十五週

お正月の仕度

斯う言つた觀察位漠然こしたものはない。が社會興味を多少持ち始めて来る年齢の子きもに取つてよく扱はれたなら面白いここである。お正月になれば小學校へ行くのが近くこいふ喜でいつの年より待たれるお正月である。自ら丈でなくおうちのここ、町のここなきみに行つたり注意させたりして話合こして發表させ一しよに喜び待ちたい。

自由畫 共同 四回

お話をきゝて後に黒板なり畫用紙なりにお話のある場面
數種かゝせる。サルカニ合戦或はウラシマ太郎なご簡單
な繪卷物が出来るわけである。組で一つでもよいし又一
グループに一つ宛でもよい。

ぬりゑ ハネ 一回

實物のハネを見て幼兒に隨意にぬらせる

製作 蝶 二回

蝶々の羽を綺麗な色でぬらせて、羽を動かす工夫をして
上下に動す。

第十四週

自由畫 毛筆

包紙なごのなるべく大きなものを用意して毛筆でかゝせ
る。この場合二三人つゝ交代です。

缺仕事 みかん

みかんの實物を用意してへたなごつけて切り紙にする。

年長組なれば幼兒一人つゝ各兒にはらせる。

製作 とうなす人形、クリスマスの家

人形がとうなすの舟に乗つてゐるところで動かすしかけ
で人形だけ動く様につくる。クリスマスの家も動すしか
けでストーブの上にサンタクロースが上下するやうにつ
くる。前週の蝶々、とうなす人形、クリスマスの家なご
皆人形、象の動かす工夫を利用してつくるのである。

第十五週

自由畫 二回

製作 かばん 二回

ラシヤ紙にて各種動く玩具のつくつたのをいれるカバン
をつくる。

ぬりゑ まゆ玉

まゆ玉の出来上りがあればこれを見てぬる。もし作つた
ものがない時は手本ぬりを見せてぬらせる。

幼児の體育

——本會主催夏期講習會講演筆記——

東京女子高等師範學校教授

佐々木 等

私は幼児の體育に就て話せまいふ倉橋先生の御命令でここにまゐりまして、皆さんの講習を受けられる態度の嚴肅なのにまつ感心したのであります。幼児の生活に就ては多少觀察してゐますが恐らく常識的なことを言ふに止まるだらうと思ひます。

先づ、自分のことを少し申し上げ様と思ひます。私は小さい時から非常に苦勞をして來てゐます。前半生を申し上げたら本當かと思はれる程であります。小さい時は體が弱く、かんが昂く、意志も弱かつた。人が卒業する頃師範學校へ入り、卒業してから七十六人の生徒を受持つた時非常に責任を感じました。初めの一二時間はおこなしかつたが段々野性を出して來て、二三日するに神經衰弱になつてしまひました。それで學校から抜け出す事にしました、その時日本で初めての體育科に入るように先輩から言はれて補缺に入り三年半で卒業しましたのが大正八年。東京を志望して府立五中に赴任して、一年経つた時高等師範の小學校に來てくれと言はれ、五ヶ年間子供達と一緒に暮しました。その間子供の體育に興味を得、一生懸命しなければならぬと思ふ様になりました。その中體育研究所が出來ましたので大正十三年からそこに關係し、昭和八年の四月まで高等師範に體育研究所にゐました。昭和八年の四月から女高師の方に來たのであります、それで女子の體育をも種々考へる様になりました。

女子の使命を考へて見ます。三釋迦の説法にもある通り女子は母なること、母となつて子供を養育すること、の二つあるを思ひます。幼稚園の規則を調べて見ましたところ保姆は女子が之に當ることあります。保姆は女子に限るのであります。

これは頗るよく出来てゐると思ふ、男子は抜けてゐる感があるが女子は精密であります。この點非常によいと思ひます。そこで女子の體育と子供の體育とは密接な關係があるのであります。日本の國家を強くする爲には母體の健康を増進しなければなりません。女子體育は男子のそれより重大であります。幼児保育の立場から、幼児の體育は日本の繁榮の爲に大切でありますから皆で氣を揃へてやり度いものであります。八月一日からベルリンでオリンピックゲームが開催せられますが、あの選手が全力を盡します。がスポーツがそんなに盛になつても駄目で、皆が揃つてするのでなくては駄目でありませぬ。ピラミッドの様に底が廣くて選手がその上に出たものでなければならぬを考へます。國防費がかさんでゐますが國民の生活の安定を無視してはいけません、そして壯丁の體格を増進しなければいけない。陸軍大臣が言はれてゐます。衛生省、保健省も次第に必要なつて來るのだと思ひます。女子の身長が伸びたと言はれてゐます。實際銀座を歩いてゐます。ミ大い母親より娘の方が背が高い、しかし力がありません。ミミ迄も力の強い者になることが大切であります。子供の體育を考へると同時に母親の體育が考へられねばなりません。日本國家の充實には女子の體育の實を擧げねばならないと同時に幼児の體育を奨励させねばなりません。現今幼児の體育は左程考へ及んでゐない様であります。

幼児期といふものはさう言ふ時代であるかそんな特徴を持つてゐるかは教育學で聞いてゐられる事であるからこゝに改めて言ふ迄もない、陶冶性はお互に持つてゐる、が幼児は自分からやつて行かうとする力はなく、被陶冶性は非常に強く學習するには最も充實した時代であります。従つてこの時代の教育は非常に大切であり、將來の職業決定はこの時期に判ることされます。又遊戯に依つても將來何になるかに判るものであります。兎に角自分に對する主張が強く我儘な行動が

多から取扱ひに骨が折れ苦心を必要とします。その上に尙我々からお願ひするのは迷惑でありませうが子供時代に與へられたヒントといふものは後々までも影響を與へられるものであります。私は幼児期に不良だつたと言ひませうか煙草が好きでありました。これも體が弱かつた故でありませう。それが尋常一年の時ニコチンの害の話をきいた、それから煙管を見るのもいやになりました。今日では酒も煙草も飲みません。幼少の時代の一寸したこゝが非常に大きな影響を與へるこゝが判ります。又幼児期の特徴と言ひませうか子供の生活をみてみますとよく喧嘩をします。これは危くさへなかつたらやらせた方がいゝかと思ひますがその原因は自分の欲求からするので意が通らない場合であります。食物の事では特に欲求が盛であります。ですから子供は食べ過ぎる事が多いので、又食物に敏感であります。子供は水を飲み度があります。水を絶対に飲ませない人もありますが發育盛りには要求するのであります。稻も花が開く時は水を盛に取り取ります。發育には水は必要なので、その時與へないのはむしろ罪惡であります。但し多く與へすぎていけないこゝは勿論であります。

又子供は残忍性を露骨に表すものです。トンボの眼を抜いたり、蛙の皮をむいたりします。この残忍性は文明人より野蠻人よりは非常に開きがあります。野蠻人は露骨に表します。その點子供は野蠻人に似てゐると言へませうか。文明人より野蠻人、男より女でこの表し方がちがひます。イギリスのダーウィンの南米に研究に行つた時の見聞談であります。海岸で貝を取つてゐる夫婦と子供の三人の様子をみてゐた處、男が海にもぐつて貝を三つて來ては子供に渡し、子供が籠に入れてゐるが風がひびくつて子供が籠をおこしてしまつた。男は怒つて子供を岩にぶつけて殺してしまつたといふのが書いてあります。いかにも野蠻性を表してゐますが子供が感情を直接表す處似た點がある様であります。次に榮養の問題であるが、前にも述べた様に子供は飲食物に敏感であります。榮養のこゝに就いては中々一口に言へません。植物でもあんまり肥料を與へすぎではいけない様なものであります。榮養を吸收する根は決つてゐるので多過ぎては反つて枯してしまひま

す。しかし、栄養の問題は幼児教育に深い関係のある事は言を俟ちません。社會問題として幼稚園で給食することも考へられるべきと思ひます。兎に角子供は子供として發育させると同時に國家に有爲な人間をつくらねばならないのですから子供の時から目標を立て、育てなければならぬと思ひます。幼児教育もこの點に着眼せねばならぬと思ひます。

そこで、幼兒體育の中心となるものは何であるか、これは皆さんがよく考へて居られることではありますが遊戯プレイであります。これを指導することは容易の様で大變難しいことでもあります。同じ材料でも指導如何によりよくもなり悪くもなります。先程言ひました様に遊戯は職業迄決定する程のものであります故、専門家に就いて充分研究しなければなりません。これと同時に考慮しなければならない事は衛生の問題であります。傳染病の豫防、水の制限、虚弱者に對する扱ひ方等について充分なる注意を要する事は勿論であります。太陽燈等について近年種々研究されてゐる様でありますが比較的光線に恵まれないヨーロッパでは必要でありませうが實際光線の當る日本ではあまり必要ではない様であります。この遊戯によつて子供は自己發展の力を養ふのであります。

さてその設備であります。砂場は勿論必要であります。外國でも砂場が大分發達してゐる様で、かつて、旅行した際、アムステルダムAmsterdamの町の廣場に澤山砂場があり子供が非常に澤山遊んでゐる事を記憶してゐます。ベルリンには道端に砂場がありました。それから滑り臺、小さな山、ジャングルジム、これが日本で最初に出來たのはこの附屬小學校であります。アメリカの創案であります。子供が大變喜ぶことは御承知の通りであります。その他、小さな流れ、又池が欲しい、子供は水遊びを好みます。ベルリンの郊外でも子供が二人雨上りの水溜りプールでバケツをもつて面白さうに遊んでゐるのを見た事がありました。この他運動場は勿論必要で規則でも一人當りさの位の廣さ以上は決つてゐます。

次に遊戯の實際に就いて申述べ様と思ひます。遊戯を次の様に分けることが出來ます。

即ち Play } 遊 技
 Competition } 團體競技

この中で幼児にはプレーミ團體競技が最も適するものであります。そこでその目的は言ひます。極意は人間陶冶であります。がこれを身體的方面ミ精神的方面ミに分けて考へて見ます。まづ身體的方面では運動を正確機敏自由ならしめること。力の養成、身體ミ精神を完全にコンビネートせしむること、生活の安全性を強化すること等があります。精神的方面を申します。本能の純化、意志の鞏固、判断の正確、觀念聯合の速かさ、觀察の精密性及速かさ、等を養ひ、想像を盛にし創造的活動を促進し自信力の養成をなす等があります。これを要するに人間的陶冶であります。

そこで如何な遊戯があるか申します。分類は人に依つて異ひますがまづ①身體活動を主とする遊戯ミしましては走ること、跳ぶこと、投げること、相撲、ブランコ、輪廻し、繩遊び、よち上ること等、②模倣想像活動を主とする遊戯ミして、動物のまね、大人の仕事のまね、汽車電車ごっこ、兵隊ごっこ、マ、ゴト遊び、郵便屋ごっこ等、③自然物を友とする遊戯ミして蟲取り、魚すくひ等、④童話劇ミして桃太郎ごっこ、浦島太郎遊び等、⑤唱歌遊戯、これは言ふ迄もありませんが歌詞、歌曲に伴つたりリズムミカルな運動であります。⑥競争、幼稚園時代はあまり競争はよくないと思ひます。幼児は頭が大きくて倒れ易いものであります。が骨がやはらかく曲ることが多いので危険はわり合少いものであります。競技ミしては旗取り、子供は何か取り度い氣持が旺盛であります。鬼遊び、陣取り鬼、跳躍的運動をさせるには觸球がよいのであります。ハンカチ取源平球投競争、受渡し競争、紅白球並べ、日月遊び、運搬遊び(二キロ乃至三キロのボールを下げて十米、二十米を行く)たまごころがし、等があります。この他體操があります。これも遊戯的に行ふ事が必要であります。

次に遊戯を行はせるに就いての諸注意を申し上げます。

1、子供に運動を好まぬ者があつた場合の處置、その理由を究めて段々やらせる様にします。指導に依つてはある程度迄好く様になります。

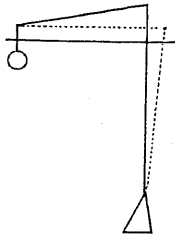
2、子供は運動の速度が早いこゝ。軍隊では一分間凡そ一一四歩。尋常六年生では一三〇歩、幼児はもつと早く早いものです。3、子供は移り氣で、何度も反復練習することを嫌ひますが、それをさせて運動を自分のものにする様指導しなければなりません。

4、運動用具に就て。危険の伴はないものを用ふるこゝ。有毒でない塗料を用ふるこゝ、感じの良いものを用ふるこゝ等の注意を要します。

5、競争遊戲で、疾走する場合の長さの長さがよいか。

子供は體力は弱いが比較的心臟が強く、血管も太いから少い量を數多くさせるがよいのであります。距離は十米から十五米の程度で旗取りならば、十米から十五米の往復、鬼ゴッコなり半徑二米か三米の圓で十五人から二十人位一團なる程度、陣鬼なら陣ミ陣ミの距離六七米位で十二三人が組になる程度、川踏び、廣い時には間で休んで又踏ぶ様にします。次に幼児に適當な競技の例をあげます。

1、觸球



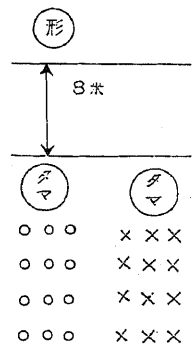
球が上げ下げ出来る様になつてゐる機械を用ふ。

2、源平球投げ

バスケットの周りに紅白のボールを散布して置き、源平同時に喜んで行つて紅白のバスケットに球を入れ、或時間で止

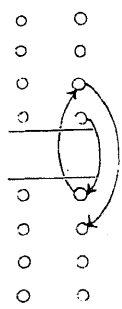
めて入った球の数を比べる。一人常り六個位の球数。それはバスケットが紅白二つあつてもよい。

3、受け渡し競争



一、二米の距離に子供を並び物を受渡す。

4、球並べ競争



三人乃至五人が一緒に、出来るだけ球を澤山もつて行つて向ふに豫め線で三角形さか、三角の中に四角さか、ダルマ、象、兎等の繪をかいて置き、球を並べて繪をうめる。出来るだけ早く出来て歸つた方が勝

となる。これは面白くて價値も多いものであります。

5、紅白圓盤遊び

先生が一方が紅、一方が白の圓盤をなげ上げて出た色が優勢になつて相手をつかまへる。

6、運搬遊び

二キロ乃至三キロのボールを十米乃至八米さげて前方の旗をいまはりして歸り次に渡す。これは少しむづかしいかも知れませんが。

7、球ころがし

大きな球(紅白)を八米乃至十米ころがして前方の旗を廻つて歸り次のグループに渡す。

(文責在編輯部)

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園 主事 倉橋 惣三
 日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應シ

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

價定

| | | | | | |
|------|--------|--------|-----|----|---------|
| 一ヶ月分 | 金參拾五錢 | 特等面 | 二頁 | 二面 | 一頁 |
| 半年分 | 金貳圓拾錢 | 金貳圓 | 拾圓 | 拾圓 | 拾圓 |
| 一年分 | 金四圓貳拾錢 | 一等面 | 一頁 | 一頁 | 以下 |
| 拾貳册送 | 料共 | 神田區駿河臺 | 三品田 | 廣 | 告社に御申込下 |

昭和一十一年十一月十三日印刷納本
 昭和十一年十一月十五日發行
 昭和一十一年十一月十五日發行
 昭和一十一年十一月十五日發行

不許複製 禁轉載

發行所

東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 印刷者 柴山 則常
 印刷所 會社 杏林 舍

注 文 規 定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て一割増)
 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

東京女子高等師範學校前教諭
文部省體操科改正要目前委員
文部省體操科檢定試驗前委員

三浦ヒロ 生新著

菊判上製三百三十頁
定價金二圓五十錢
送料十圓六十錢

【刊新最】

女性體育とダンス

一、著者は女性體育とダンスの權威者
二、改正體操要目前委員・文檢前委員
三、ダンスの生命は感情の純化に在る

東京女子高等師範多年の體験を經に歐洲二回の留見學を緯に洗練大成さる
現代女性體育の眞諦と新學校ダンスの本質たる使命とを詳細懇述す
徒に手揃足揃の未節に走る今日の學校ダンスに生命を注入されし新名著

日本畫界の耆宿

川合玉堂・結城素明・初岡映丘・川崎小虎
溝口禎次郎・藤懸靜也・多賀谷健吉先生 共著

菊版三百頁・挿繪鑑賞
繪入圖說明繪六十一圖
價二圓五十錢 十六錢

【刊新最】

日本畫と其技法

一、日本畫鑑賞の基礎解説 日本畫鑑賞家・
二、日本畫研究家に必須の最新良書
三、日本畫技法の根本指針として唯一無二の良
書、全體の實例と共に部分的に技法
上の實例を示さる

三、日本畫全分野の精解書 倭畫・漢畫・寫
生・與義と光琳派の各專門巨匠が 其の
四、現代日本畫の權威分擔 各共著者は現代
日本畫の權威者にて美校主任・帝展審査員・
帝國美術院會員を初め各要職にある權威





五、前後五箇年に涉る大力作 昭和七年に着
手し以來今日まで資料蒐集原稿完成
六、望んで得られざりし珍書 今日まで熱學
生が尙珍品とし且貴重資料とするもののみ

東大 京阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目六七番地 振替東京一〇三〇七番
大阪市南區內安堂寺町一丁目二八番地 振替大阪三九五六番

降誕祭とお正月の新手技材料

やさしくつて、美しく、拵へて張合のある新手技

| | | |
|---|---|---|
|  | <p>←カレンダー付 状差し</p> <p>50組 ¥ 1.40</p> | <p>新手技材料</p> <p>見本送呈 要郵券五銭</p> |
| <p>↓ 吊人形 サンタクロス</p> <p>50組 ¥ 1.00</p> |  | <p>↓ キャンデー・ バッグ</p> <p>50組 ¥ 1.50</p> |
|  | <p>↑ サンタクロス 手提</p> <p>50組 ¥ 1.10</p> |  |

年一回の奉仕的

キンダーブックの特賣

お子達への贈物に御利用下さい。

◇特賣期間——十二月十日迄

◇特賣値段——廿冊以上は一部

金 十 銭

送料弊社負擔

◇種類は弊社へおまかせのこと

◇各號一冊宛の御注文は定價の通り

いづれも新選の手法材料、而も、カードやら、お菓子やらを入れて、いつでも楽しめる手法が出来ます。其他羽子板・獨樂・凧各材料、桜の葉と美、金銀星形同カレンダー・臺紙等取揃へて御座います。

食館レベレーフ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・二町保神・田神・京東 店本
番八三八一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月一回）同十五日發行

昭和十一年十一月十三日印刷納本
昭和十一年十一月十五日發行

定價三十五錢